



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 1/3							
<p>【年度計画】</p> <p>(4館共通)</p> <p>ア 講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。</p> <p>(東京国立博物館) ※ア、イは後述</p> <p>ウ 文化財について分かりやすく理解するためのギャラリートーク・月例講演会・記念講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続して実施する。</p>								
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育講座室長 勝木言一郎					
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>ア 各分野の研究者や特別展のワーキンググループと協力し、精力的に講演会等の開催に取り組んだ。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>ウ 「博物館でお花見を」「博物館でアジアの旅」では、来館経験の少ない人が当館に対して抱きがちな「敷居が高い」というイメージを払拭すべく親しみやすくわかりやすい内容の「スペシャルツアー」ほかガイドツアーを企画した。月例講演会やギャラリートークにおいても展示に即した内容のほかに、博物館アーカイブや資料館の活用などの所蔵作品以外のテーマも加え、多面的に文化財について理解を深められるような学習機会を提供した。</p>								
<p>【補足事項】</p> <p>(4館共通) ア及び(東京国立博物館) ウ</p> <p>講演会32回 参加者数9,153人</p> <p>内訳 ①月例講演会「中国陶磁の形と色」ほか全12回、参加者数2,793人 ②記念講演会「黒田清輝とフランス」ほか全14回、参加者数5,048人 ③シンポジウム「現代のピラミッドを創る」ほか全2回、参加者数579人 ④テーマ別講演会「董其昌とその時代」1回、参加者数210人 ⑤その他講演会 桜セミナーほか全3回、参加者数523人</p> <p>列品解説(ギャラリートーク等) 125回、参加者総数11,123人</p> <p>内訳 ①列品解説52回、参加者総数5,350人 ②特別展関連ギャラリートーク31回、参加者総数4,083人 ③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク42回、参加者総数1690人</p> <p>連続講座「仏像三昧」1回(3日)参加者総数947人 公開講座「保存と修理のツアー」ほか全2回、参加者総数230人 その他展示に関連する事業14回、参加者総数2425人</p>								
 <p>月例講演会</p>								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年 変化	24	25	26	27
講演会等の開催回数	160回	128回	A		126	131	127	146
講演会等の参加者数	21,453人	-	-		13,193	15,777	14,419	18,080
【年度計画に対する総合評価】	<p>評価：A</p> <p>【判定根拠、課題と対応】</p> <p>講演会等の開催回数については103回と、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を上回った。また、親しみやすくわかりやすい内容のガイドツアーの企画として「スペシャルツアー」の実施や、保存と修理のツアーの開催など、文化財の理解の促進を多面的に進めることができた。</p>							
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力をを行う。</p>								
【中期計画に対する評価】	<p>評価：B</p> <p>【判定根拠、課題と対応】</p> <p>「3館園トラめぐり」など、講演会、ギャラリートーク等を順調に開催し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を上回ることができた。本年度開催の事業を継続して実施していくことにより、外部との連携協力をさらに行っていく。</p>							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 2/3								
【年度計画】 (東京国立博物館) ア 日本の歴史・文化及びアジア諸地域の歴史・文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。本館地下、本館19室、東洋館2室、6室等を教育普及スペース「みどりのライオン」と位置づけ、適宜、大講堂、小講堂やミュージアムシアター等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。 (ア) ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施 ・特集「親と子のギャラリー あつまれ! トラのなかまたち」(4月12日～5月22日) ・特集「親と子のギャラリー 美術のうら側探検隊」(7月5日～8月28日) (イ) 総合文化展の活性化を目的とした総合イベント「博物館でお花見を」(28年3月10日～4月10日)、「博物館でアジアの旅」(8月30日～10月23日)、「博物館に初もうで」(29年1月2日～1月29日)において、講演会、ギャラリートーク、体験型プログラム等の教育普及事業を実施する。 (ウ) 体験型プログラムの実施 ・特集「親と子のギャラリー」ほか、総合文化展(平常展)に関連した一般向け及びファミリー向け体験型プログラムを実施する。 ・本館19室・本館地下教育普及スペース・東洋館オアシスで展開する教育普及スペースで、ワークショップやハンズオンアクティビティなどの体験型プログラムを実施する。									
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	博物館教育課長 小林 牧						
【実績・成果】 ア 総合文化展を中心とした展示や作品に関連した企画を通じ、来館者の鑑賞体験を深め、歴史・文化の理解促進や伝統文化への興味関心を高めることを目的とした教育普及事業を展開した。 (ア) 「あつまれ! トラのなかまたち」では、トラをテーマにした文化財ならびに、国立科学博物館、恩賜上野動物園から借用した資料を展示するとともに、3館園をめぐるツアーを開催し、トラの生態や文化史に対する理解を深めた。また「美術のうら側探検隊」では、文化財の裏側を見るという新しい展示のかたちとハンズオンで、文化財の魅力を興味深く伝えることができた。 (イ) 講演会、ギャラリートーク、ガイドツアー及び、ぬりえ、衣装体験、ヨガ、太極拳などの体験型プログラム、各国の伝統芸能公演などの文化イベントを実施し、総合文化展の活性化に寄与した。 (ウ) 本館19室では、伝統模様のスタンプを使った体験型プログラムや、作品の制作工程見本の展示、IT技術により作品の高精細画像を楽しめる体験コーナーを継続して運営した。本館地下、東洋館2室、6室、ミュージアムシアターや小講堂において、各種体験型プログラム、ギャラリートーク等を、展示や対象に合わせて行った。平成館考古展示室において、レプリカによる触れるハンズオン展示を継続実施した									
【補足事項】 ・本館19室および東洋館オアシスでのハンズオン展示(688回187,028人)、ワークショップ(51回12,021人)、児童生徒を対象とした展示(86回 人数カウント不能)、児童生徒を対象とした鑑賞会(2回118人 一部人数カウント不能)と、計827回の体験型プログラムを実施し、199,167人が参加した。 ・「美術のうら側探検隊」「博物館に初もうで」ではワークシートを作成、配布。特別展でも鑑賞手引きとしてジュニアガイドの制作、配布を行った。 ・「博物館でお花見を」では「花見で一句」として俳句を募り、488件もの応募があった。そのうち一般の部6句、小学生以下の部2句については、顕彰し、記念品を贈呈した。 ○夏休み期間の8月15日には、総合文化展(本館、平成館考古展示室)で、子どもとその保護者のためのイベント「キッズデー」を開催した(キッズデー当日の総合文化展来館者数:2,390人)。									
									
キッズデー 和楽器のコンサート									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
体験型プログラム等実施回数		827回	-	-	-	-	-	-	1,042
体験型プログラム等参加者数※		199,167人	-	-		-	-	-	198,393
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 体験型プログラム等について計827回実施、199,167人の参加者を受け入れ、年度計画を順調に達成している。夏休みに新たに「キッズデー」を開催するなど、来館者の学習機会をより充実させることができた。一方で、マンパワーの問題も顕在化してきた。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って順調にギャラリートークや体験型プログラム等の事業を進め、学習機会を提供している。ただし、適切な、マンパワーの配分と事業の充実を両立させるための方策について検討が必要。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 3/3							
【年度計画】 (東京国立博物館) イ 学校との連携事業を推進する。 ・スクールプログラム(鑑賞支援・体験型プログラム等)を継続して実施する(小・中・高校生対象)。 ・職場体験の受け入れを継続して行う(中・高校生対象)。 ・教員を対象とした研修等を継続して実施する。								
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	博物館教育課長 小林 牧					
【実績・成果】 イ 学校との連携事業を計画通り実施した。 ・スクールプログラムを研究員及びボランティアにより実施し、225校7903人が参加した。児童生徒に対し目的、学年、人数などに応じたプログラムを提供することで、充実した鑑賞体験の提供に寄与した。また、伝統文化への興味関心を高め、理解を促した。 ・スクールプログラムにおいては新たに、タブレット端末による鑑賞支援アプリ「学校版トーハクナビ」を使った鑑賞プログラムの運用を開始した。 ・職場体験として、19校63人を受け入れた。 ・「盲学校のためのスクールプログラム」を2校7人が参加した。また、盲学校教員に対する研修を1回実施し、19人が参加した。 ・教員鑑賞会・ガイダンスを3回実施し、計175人が参加した。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修(共催：東京藝術大学)を7月26日～28日の3日間開催し、41名が参加した。漆工をテーマに、日本文化と博物館への理解を深めると同時に、博物館における鑑賞や伝統文化教育について教員とディスカッションを実施し、意見交換を行った。								
【補足事項】 イ スクールプログラムとしてレクチャー、対話型ギャラリートーク、見学ガイドアプリの貸出し、ワークショップ、キャリア学習など15のコースを設けた。告知はパンフレット、ウェブサイトで行い、ファックスとウェブサイトでも申し込みを受け付けた。								
								
スクールプログラム実施風景								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
スクールプログラム実施回数	227回	-	-		-	-	-	211
スクールプログラム参加者数	7910人	-	-		-	-	-	8,261
職場体験実施回数	19回	-	-		-	-	-	19
職場体験参加者数	63人	-	-		-	-	-	60
教員を対象とした研修実施回数	6回	-	-		-	-	-	6
教員を対象とした研修参加者数	235人	-	-		-	-	-	585
印刷物	30,000部	-	-	-	-	-	42,000	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 スクールプログラム、職場体験の受け入れ、教員を対象とした研修など学校との連携事業を順調に実施し、年度計画達成している。全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修については、対象が限られているため、今後のあり方について検討を要する。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 学校等との連携教育の下、スクーププログラム、職場体験などの学習機会の提供を行い、中期計画に順調に取り組んでいる。教員研修については、より広い対象に向け、より充実したものになるよう検討が必要。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 1/2								
【年度計画】 (4館共通) ア 講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (京都国立博物館) ウ 歴史や文化についてわかりやすく理解してもらうため、講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長 山川 暁						
【実績・成果】 (4館共通) ア 京都国立博物館においては、前中期目標以上の講演会等を開催した。 (京都国立博物館) ウ ・「記念講演会(禅における<心>のかたち)」(4月16日、講師：花園大学所長 野口善敬氏)(1回・190人)を実施した。 ・「土曜講座」(4月23日、講師：花園大学教授 福島恒徳氏 他)(38回・4,123人)を実施した。 ・「夏期講座(名品を旅する)」(7月27日～29日、講師：実践女子大学教授 六人部昭典氏 他7名)(1回・210人)を実施した。 ・「社会科教員のための向上講座」(11月4日、講師：京都国立博物館列品管理室長 宮川禎一)(1回・69人)を実施した。 ・「セミナー・シンポジウム等」(4月24日、講師：明治学院大学教授 山下裕二氏 他)(4回・540人)を実施した。									
【補足事項】 (京都国立博物館) ・記念講演会は花園大学国際禅学研究所 所長 野口善敬氏に講師を依頼し、190人もの聴講者があった。 ・土曜講座は昭和48年から開始し、28年度末で1848回を数える歴史ある普及活動で、参加者から高い評価を得ている。									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評定	経年 変化	24	25	26	27
講演会等の開催回数		45回	26回	A		19	21	36	39
講演会等の参加者数		5,132人	-	-		3,150	2,062	4,596	4,845
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 講演会・土曜講座・夏期講座等を継続して実施し、開催回数については、目標値を大幅に上回る回数を実施することができた。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を順調に行うことができた。また、数年前より継続してきた「社会科教員のための向上講座」は、リピーターも多く教員に定着しており、28年度は講座をもとに実際の指導案を作成するなど教育現場へのフィードバックが効果として見られた。次年度以降も継続してこれらの事業を実施し、内容の充実につとめる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 2/2								
【年度計画】 (京都国立博物館) ア 京文化を核としながら、日本及び東洋の歴史・文化に対する理解促進を図るために教育普及事業を実施する。 ・ 展覧会鑑賞ガイド・ワークシート（小中学生向けを含む）などを発行する。 ・ 「博物館くらぶ」や京博ナビゲーターによるミニワークショップなど、文化財への一般の関心を高める体験型イベントを実施する。 ・ 分かりやすい展示作品解説シート「博物館ディクショナリー」を発行し配信する。 ・ ハンズオン教材を設置し、京博ナビゲーターが常駐する「ミュージアム・カート」を展開する。 イ 教育諸機関等との連携事業を推進する。 ・ 京都市内の小中学生を対象とする訪問授業「文化財に親しむ授業」を実施する。 ・ 京都市内4美術館・博物館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館）で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力を図る。 ・ 教員のための講座を開講する。 ・ 他の博物館や教育諸機関と協力した教育普及事業を実施する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長 山川 暁						
【実績・成果】 ア ・ 「鑑賞ガイド」（「トラりんと見てみよう！ 丹後に伝わる祈りのかたち」8,000部、「トラりんと見てみよう！ 美術のなかのとりたち」13,000部）を発行した ・ ワークショップ「くじ」で出会う 禅の言葉（36回・11,547人）、「龍馬さんからお手紙です！」（38回・8,725人）を実施した ・ 「博物館Dictionary」（10回、20,000部）を発行した ・ 「さわって発見！ ミュージアム・カート」を実施した（197回） イ ・ 「文化財に親しむ授業」（7回・931人）、「おしゃべり鑑賞会」（1回・58人）を実施した。 ・ 「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、京都ミュージアムズ・フォー連携講座「坂本龍馬の手紙を読む」（1回・200人）を実施した。 ・ 「社会科教員のための向上講座」（1回・69人）、「文化財を教室に！ー複製を活用した事例紹介と交流会ー」（1回・24人）、「大阪府高等学校美術工芸教育研究会」（1回・13人）を実施した。 ・ スクールプログラム、来館学校団体等への対応（7回・344人）を行った ・ 東日本復興支援の「こども☆ひかりプロジェクト」に参加した（4回・960人） ・ 「ひとはくKidsサンデー」（兵庫県立人と自然の博物館）など他館プログラムや学校の鑑賞授業等に協力した（10回・601人）									
【補足事項】 (京都国立博物館) ・ 28年度あらたに、「大阪府高等学校美術工芸教育研究会」（1回・13人）を試験的に実施した。29年度は人数を増やして実施予定である。 ・ サンフランシスコ・アジア美術館（アメリカ）とパートナーシップを結び、日本文化を紹介する教育用サイト「TeachJapan.org」の立上げに協力した									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
体験型プログラム等実施回数		553回	-	-	経 年 変 化	-	-	-	268
体験型プログラム等参加者数		21,333人	-	-		-	-	-	16,200
スクールプログラム等実施回数		7回	-	-		-	-	-	10
スクールプログラム等参加者数		344人	-	-		-	-	-	378
文化財ソムリエによる訪問授業実施回数		7回	-	-		-	-	-	7
文化財ソムリエによる訪問授業参加者数		931人	-	-		-	-	-	658
教員を対象とした研修実施回数		3回	-	-		-	-	-	12
教員を対象とした研修参加者数		106人	-	-		-	-	-	1,080
印刷物		41,300部	-	-		-	-	-	70,000
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 年度計画に基づいて館内の教育普及事業や、教育諸機関等との連携事業を推進し、今年度はあらたに「大阪府高等学校美術工芸教育研究会」（1回・13人）を実施し、対象を広げることができた。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 館内での活動に加え、学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との協力し、今中期計画期間の事業の初年度として順調に事業を実施できた。今後も事業を継続し、内容の充実をはかりたい							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 1/2							
<p>【年度計画】 (4館共通) ア 講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (奈良国立博物館) イ 講座等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教美術等に関するサンデートークを定期的を実施する。 ・特別展等に際してシンポジウム、フォーラム及び公開講座等を開催する。 ・一般向け教育普及事業として夏季講座を開催する。 ・特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 ・文化財保存修理所の一般公開を行い、文化財保存の意義についての認知度向上に努める。 ・正倉院展において小学生とその家族を対象とした講座を実施する。 								
担当部課	学芸部教育室	事業責任者	室長	谷口耕生				
<p>【実績・成果】 (4館共通) ア 28年度は講演会等を26回実施した。 (奈良国立博物館) イ・サンデートークは毎月第3日曜日に12回実施。計991人の参加があり、アンケート結果で平均満足度88%を得た。 ・公開講座は3つの特別展及び3つの特別陳列の会期中に13回実施。計1,972人の参加があり、平均満足度87%を得た。 ・特別展関連の親子ワークショップとして4月30日に「空とぶ鉢のおはなし絵巻をつくろう!」、7月30日に「描いて飾ろう文殊菩薩」、7月31日に「きく!みる!ふれる!東征伝絵巻」を実施。計232人の参加があった。 ・正倉院展に関連したシンポジウムとして「正倉院学術シンポジウム2016 正倉院正倉」を11月3日に実施。4人のパネラーにより基調講演と討論を行った。197人の参加があり、平均満足度90%を得た。 ・夏季講座は「律宗の歴史と美術－鑑真と忍性へ」と題し、奈良県文化会館を会場に8月17日～19日の3日間実施。講師は8人、555人の参加があった。 ・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、『お水取り「講話」と「粥」の会』を29年2月11日に実施し、37人の参加があった。 ・文化財保存修理所の一般公開は、29年1月12日に3回実施し、計119人の参加があった。 ・第68回正倉院展では、10月23日に「親子鑑賞会」を実施し、152名の参加があった。</p>								
<p>【補足事項】</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>夏季講座「律宗の歴史と美術－鑑真と忍性へ」会場風景</p> </div> </div>								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
講演会等の開催回数	26回	28回	C		29	26	27	28
講演会等の参加者数	3,518人	-	-		3,454	3,219	3,525	3,974
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 講演会等の開催回数が目標値を2回下まわったものの、ほぼ当初の予定通り各種の講座及び講演会を実施することができ、例年どおり多数の参加者数が得られた上、アンケートにみる満足度も高かったことから順調と判断した。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展等に関連した公開講座、当館研究員の多彩なテーマによるサンデートーク、小学生等を対象としたワークショップを開催し、仏教美術のコアなファンから初心者の方まで各々に応じた学習機会を提供できた。また『お水取り「講話」と「粥」の会』では東大寺の協力により歴史・伝統文化に触れられる機会を提供することができ、中期計画は順調に進んでいる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 2/2								
【年度計画】 (奈良国立博物館) ア 小中学校との連携 ・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信する。 ・奈良市内の公私立小中学校に博物館だよりを送付する。 ・世界遺産学習を小学校高学年を中心に実施する。 ・中学生の職場体験学習を受け入れる。 ウ 奈良市教育委員会及び奈良教育大学と連携してE S D(持続発展教育)プログラムの開発を行う。 エ 地下回廊のタッチパネル式学習端末機で名品のハイビジョン映像等を公開する。 オ 地下回廊で仏像模型及びパネルを用いて、文化財に関する情報を継続的に公開する。									
担当部課	総務課	事業責任者	課長	室	氏	名	姓	名	
【実績・成果】 (奈良国立博物館) ア ・奈良県内の小中学校に対してメールマガジンの配信を行った。 ・『奈良国立博物館だより』は、奈良市内の全小中学校への郵送配布を行った。 ・世界遺産学習事業を、奈良市の公立小学校5年生(25校1,542人)に対して実施した。 ・中学2年生の職場体験で3校7名を受け入れた。 ウ ・奈良市教育委員会との連携事業として、奈良市内在住の親子を対象としたE S Dプログラムの実施に関する検討会 議を行った。E S Dプログラムについては29年度夏より実施する予定である。 ・生誕800年記念特別展「忍性―救済に捧げた生涯―」に関連した事業として、「描いて飾ろう文殊菩薩～忍性のき もちになって～」を奈良教育大学との連携事業として実施した。 エ 地下回廊のタッチパネル式学習端末機で、収蔵品の中から名品の画像を公開した。 オ 地下回廊で仏像模型や新たに追加した解説パネルを用いて、文化財に関する情報を充実させた。									
【補足事項】 (奈良国立博物館) ウ 奈良市教育委員会との検討会議実施回数 3回									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評価		24	25	26	27
体験型プログラム等実施回数		21回	-	-	経 年 変 化	-	-	-	23
体験型プログラム等参加者数		384人	-	-		-	-	-	380
スクールプログラム等実施回数		24回	-	-		-	-	-	8
スクールプログラム等参加者数		1,701人	-	-		-	-	-	390
職場体験実施回数		3回	-	-		-	-	-	4
職場体験参加者数		7人	-	-		-	-	-	9
世界遺産学習実施学校数		25校	-	-		-	-	-	37
世界遺産学習参加者数		1,542人	-	-		-	-	-	2,440
音声ガイド		770台	-	-		-	-	-	816
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 直接見聞きして学習できる世界遺産学習、自発的な学習を促すタッチパネル式学 習端末、仏像模型や解説パネルを設置するなど、様々なかたちで学習の機会を提供 できた。また、奈良市教育委員会との検討会議を3回実施するなど、29年度の事業実 施に向け準備が進められた。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。そ の際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 28年度は中期計画のとおり、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験 等による学習機会を提供することができた。また、地元教育委員会との連携を図り、 29年度の事業実施に向け準備を進めることができ、中期計画は順調に進んでいる。							


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																		
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 1/3																																		
【年度計画】 (4館共通) ア 講演会等の開催回数については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (九州国立博物館) ウ シンポジウムを開催する。 エ 特別展記念講演会を開催する。 オ 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。 カ ミュージアムトークを随時実施する。 キ 文化施設等へ講師を派遣する。 ク 特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。																																			
担当部課	学芸部企画課 交流課		事業責任者	課長兼文化交流展室長 河野一隆 課長 吉川利幸																															
【実績・成果】 ウ 「文化財防災ネットワーク推進事業」等シンポジウムを合計4回実施した。 エ 特別展で記念講演会を開催した。(合計：3回) オ 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業としてワークショップ等を実施した。 カ 展示物への理解をさらに深めるためにミュージアムトークを定期的に行った。(合計：49回) その際、パワーポイントの活用や実物の提示などを行い、来館者サービスに努めた。(参加人数：1,401人) キ 地元の諸団体からの依頼に基づき、研修会やセミナーの講師として文化施設に研究員を派遣した。(8回、667人) ク 各特別展でワークショップを開催し、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行った。																																			
【補足事項】 オ、ク ・「始皇帝と大兵馬俑」展では、始皇帝が行った単位の統一を体感してもらう企画「秦の単位で身体測定」を実施。秦の単位の目盛りをつけた身長計と体重計を会場内に設置し、来館者に身長、体重を計測してもらった。小中学生向けのジュニアガイド「めざせ！始皇帝博士」を作成し、事前配布及び会場配布を行った。また、5月5日の子どもの日企画として、兵馬俑の髪型と冠をペーパークラフトで作るワークショップ「紙で工作！兵馬俑に変身！」を実施した。 ・「京都 高山寺と明恵上人」展では、入場のための長い待ち時間が予想されたことから、明恵上人を紹介する冊子「レジェンド・オブ・明恵」を製作し、エントランスホールで配布した。また、冊子の一部をパネルにし、会場内にも設置した。冊子はホームページでもダウンロードできるようにした。 ・「宗像・沖ノ島と大和朝廷」展では、会場内に体験コーナーを設け、3Dプリンタで出力した貝輪のレプリカ及び貝製品の素材であるイモガイの現生品を触れられるようにした。また、わかりやすい解説として、沖ノ島に住む鳥をキャラクターとした「ドリー」が展示に関する豆知識を紹介する題箋サイズのパネルを設置した。さらに、古代に親しむ企画として、会場外に写真撮影及び古代服「貫頭衣」試着コーナーを設けた。																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>28年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> <th rowspan="2">経年 変化</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講演会等の開催回数</td> <td>77回</td> <td>90回</td> <td>C</td> <td></td> <td>102</td> <td>90</td> <td>82</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>講演会等の参加者数</td> <td>5,369人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>8,354</td> <td>7,267</td> <td>4,694</td> <td>6,212</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年 変化	24	25	26	27	講演会等の開催回数	77回	90回	C		102	90	82	87	講演会等の参加者数	5,369人	-	-		8,354	7,267	4,694	6,212
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年 変化	24	25	26	27																											
講演会等の開催回数	77回	90回	C			102	90	82	87																										
講演会等の参加者数	5,369人	-	-		8,354	7,267	4,694	6,212																											
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 さまざまな来館者層を対象にした多岐にわたる教育普及事業を実施し、アンケート結果からも高い評価を得た。講演会等の開催回数は27年度よりも減少したが、展示パネルや配布冊子等の質を上げるために尽力し、体験型の教育活動を充実させたことで、参加者数は過去2年の水準をほぼ維持した。																																
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。																																			
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 「学校よりもおもしろく、教科書よりもわかりやすい」という理念に基づく当館独自のわかりやすく楽しい教育普及が好評を得ており、今中期計画期間の初年度として順調に事業を達成できた。今後も当館の理念に沿った学習機会の提供に取り組んでいきたい。																																



冊子「レジェンド・オブ・明恵」

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 2/3								
【年度計画】 (九州国立博物館) ア 博物館における体験型事業の充実を図る。 ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットを開発する。 ・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。 ・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムを開発する。									
担当部課	学芸部企画課 交流課	事業責任者	課長兼文化交流展室長 河野一隆 課長 吉川利幸						
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) ・体験型展示室「あじっば」を運営するとともに、これまでの調査研究で得られた知見を加味して、BOXキット等の体験資料を開発し、新規に収集した資料の紹介を行った。 ・「なりきり学芸員体験」「なりきり考古学者体験」「なりきり文化財カメラマン」「ガムランワークショップ」「行こうよ!あじっば夏祭り」等のワークショップを館内で実施したほか、「きゅーはくきやらばん」と名づけた教育普及活動を継続的に行うなど、幅広い層に向け教育活動の場を提供した。 ・「あじっば」においてアジア諸国の文化を紹介するとともに、アジア諸国の文化の類似性や相違性について理解を深める体験学習プログラムを行った。また、BOXキット等の体験資料を開発した。 ・学校やイベント先へ貸出可能な「松菊里型住宅をモデルとした『組み立て式堅穴住居』」を開発した。室内・屋外問わず使用可能で、また材質を研究し検討を重ね、博物館の環境にも配慮したものを設計し、製作した。									
【補足事項】 ・教育普及活動「きゅーはくきやらばん」を15回実施。当館の体験プログラムを基本に、新規開発したプログラムを提供した。県内では福岡県立少年自然の家「玄海の家」や九州芸文館、遠方では被災地支援のため、福島県、宮城県、熊本県まで派遣した。特に仙台市では、毎年太宰府で実施されている「古都の光」を模して、子ども達に“灯笼”を作ってもらい、街路に飾るという新しいワークショップに取り組んだ。 ・「行こうよ!あじっば夏祭り」は、2日間でのべ599人が参加した公開型ワークショップで「ぶーぶーペット作り」「ワラの工作にチャレンジしよう!」「せかいの「コマ」であそぼう!」「ぬりえ」の4つのワークショップを提供した。 ・体験学習プログラムを合計6件開発した。(「竹でできた楽器」「カルタ ～私はだれ 夏祭りでのプログラムの様子 でしょう?～」「おひなさま」「かくれんぼ」「針聞書」「世界の玩具」) ・あじっば入口付近のディスプレイでは2回の特集展示を実施した。(「京劇」「植物でできたものたち」) ・小学校児童向けに「わくわく通信」を5回発行し、広報に努めた。体験プログラムや子ども向けのイベントを告知するチラシで、博物館近隣の筑紫地区・粕屋地区・福岡市・小郡市の全小学校に、毎回136,800枚を配布している。募集型の体験プログラムは毎回ほぼ定員に達した。 ・28年度は、中学校で“あじっば”所有の教育普及資料を利用した連続授業を初めて実施した。選択授業として生徒24名に対し、全3回で、「ふでばこ展示会」「木目込みまり作り」「世界のこま体験」のワークショップをボランティアと共に、双方に有意義な時間となった。									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評定	経年 変化	24	25	26	27
体験型プログラム等実施回数		2,143回	-	-	-	-	-	-	639
体験型プログラム等参加者数		7,796人	-	-	-	-	-	-	8,860
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 組み立て式の堅穴住居は、当館オリジナルの試みであり、広い反響を呼んだ。また、展覧会と教育普及活動の連携で「九博らしさ」を前面に押し出した企画となっており、大きな成果を挙げている。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 体験型展示室「あじっば」のコンテンツを利用したワークショップを行う「きゅーはくきやらばん」を15回実施し、県内外の多くの子ども達に学習機会を提供できた。またアウトリーチ活動を通じて、兵庫県立人と自然の博物館や京都国立博物館、熊本県立装飾古墳館など他博物館との連携協力を推進するなど、今中期計画期間の初年度として順調に事業を実施できた。今後も他館との連携協力を図りながら、県内外の多くの子ども達に学習機会を提供したい。							




中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 1)学習機会の提供 3/3							
【年度計画】 (九州国立博物館) イ 学校教育との連携事業を実施する。 ・職場体験(中学生)の受け入れを実施する。 ・ジュニア学芸員(高校生)事業を実施する。 ・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場を設置する。 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。 ケ 放送大学の面接授業を実施する。								
担当部課	交流課	事業責任者	課長 吉川利幸					
【実績・成果】 (九州国立博物館) ・職場体験(中学生)を17回87人(のべ35日間)受け入れた。 ・地元の高校生を対象としたジュニア学芸員体験事業を12月4日～29年3月12日の期間で8回実施(17人参加)し、なりきり学芸員体験や体験型展示室「あじっば」のリーフレット作成ワークショップなどを体験させた。 ・教員向けの福岡県教育センターのキャリアアップ講座を2回実施。 その他、高等学校教員初任者研修・経験10年経過研修を行った。 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」は、47件・87パックの貸出しを行った。 ・出前授業や館内での体験等を希望する学校への個別対応を行った。 ・放送大学の面接授業を実施した。								
								
「ジュニア学芸員体験」の様子								
【補足事項】 ・放送大学では、全8回の講義を行った。館長や研究員が講師となり、特別展開催のマネジメントや教育普及の取り組み方、平常展の展示についてなど、博物館運営についての講義を行った。								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価		24	25	26	27
スクールプログラム等実施回数	18回	-	-	経年変化	-	-	-	13
スクールプログラム等参加者数	625人	-	-		-	-	-	1,251
出前講座実施回数	6回	-	-		-	-	-	6
出前講座参加者数	179人	-	-		-	-	-	370
職場体験等の実施回数	17回	-	-		-	-	-	32
職場体験等の参加者数	87人	-	-		-	-	-	117
教員を対象とした研修実施回数	4回	-	-		-	-	-	12
教員を対象とした研修参加者数	73人	-	-		-	-	-	167
「きゅうぱっく」貸出件数	87件	-	-		-	-	-	75
印刷物	145,000部	-	-		-	-	-	175,000
その他ウェブコンテンツ	1,331件	-	-	-	-	-	11,050	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 職場体験(17回、87人参加)、教員研修(4回実施)、放送大学等(受講者数：40人)について、事前に担当者と内容検討を行い、計画通り実施できた。 今後、さらに内容の充実を図っていく。							
【中期計画記載事項】 講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に対して学校教育との連携を順調に推進しており、職場体験、教員研修、放送大学の面接授業等についても、計画通り着実に実施できた。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援							
【年度計画】 (東京国立博物館) ア 館内案内、各種事業の補助活動等の充実を図る。 イ 点字パンフレット、触知図、盲学校対応プログラム等による視覚障がい者対応、手話やコミュニケーションボード等による聴覚障がい者への博物館案内等、バリアフリー活動を実施する。 ウ 自主企画グループによる各種ガイドツアー等を継続して実施する。 エ スクールプログラムの一部をボランティアにより実施する。 オ ボランティアデーなど、ボランティアの企画立案によるプログラムの充実を図る。								
担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 鈴木みどり					
【実績・成果】 ア及びエ 館内各所での案内、本館19室みどりのライオン体験コーナー、東洋館オアシス（教育普及スペース）での活動、職場体験の活動補助の他、イベント班とワークショップ班による、年間を通した各種イベント・ワークショップ・保存修復事業の補助活動、スクールプログラム班による学校団体向けプログラムの一部を実施。また、各活動実施のための研修会・解説会を実施した。 イ 通年で触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動を実施。バリアフリー対応班により、盲学校を含む視覚障がい者対応と盲学校教員向けの研修会、点字パンフレットの印刷、自主企画グループにより手話通訳付きのガイドを実施した。また、実施準備や活動のための研修会を実施した。 ウ 全16の自主企画グループによるガイドツアー等の活動を実施した。また、研究員による、ボランティア活動のための研修会を実施した。 オ 通常の自主企画グループの活動の他に「留学生の日」・「ボランティアデー」・「博物館でお花見を」・「博物館でアジアの旅」・「キッズデー」などでの活躍の場を設け、より自主性を持った活動を行えるよう支援した。また、ボランティアデーでは、新規ボランティア応募者を対象に募集説明会とボランティアによるボランティア活動紹介ツアーを実施した。								
【補足事項】 イ バリアフリー活動として、点字パンフレットを13冊作成、手話通訳付きガイドツアーとして「たてもの散歩ツアー」（隔月1回、全5回）を実施した。 ウ 各自主企画グループ及びボランティア活動紹介ツアー等を実施した。 369回14,187人) ・自主企画グループによるガイドツアーとして、15グループ（樹木ツアー、浮世絵ガイド、本館ハイライトツアー、法隆寺宝物館ガイド、考古展示室ガイド、陶磁ガイド、庭園茶室ツアー、お茶会、彫刻ガイド、英語ガイド、こどもたちのアートスタジオ、たてもの散歩ツアー、近代の美術ガイド、東洋館ツアー、刀剣・武士の装いツアー）が活動した。東洋館オアシスの活動 また、たんけんマップグループが印刷物を作成した。 ・ボランティアに対する研修を行った。（38回、解説会5回） ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
ボランティアの受入人数	169人	-	-		170	169	173	173
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計169人のボランティアを受け入れ、来館者対応、各種イベント・ワークショップ・保存修復事業の補助活動、触知図やコミュニケーションボード等を用いたバリアフリー活動や盲学校対応、スクールプログラムの一部実施、ガイドツアー等、多岐にわたって計画的に各種事業を実施しており、順調に目標を達成している。							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、生涯学習活動に寄与するためのボランティアの育成及びその活動の支援をするなど、順調に取り組んでいる。今後、ますます多様化する来館者に対して、きめ細かな対応ができるよう、引き続き育成を進めていく。							



東洋館オアシスの活動

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援							
【年度計画】 (京都国立博物館) ア 教育普及補助ボランティア(京博ナビゲーター)活動の充実を図る。 イ 調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。 ウ 文化財に親しむ授業講師(文化財ソムリエ)として大学生・大学院生ボランティアを育成し、小中学校への訪問授業を実施する。 エ「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用する。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 植田義雄 教育室長 山川 暁					
【実績・成果】 (京都国立博物館) ア ・京博ナビゲーター(151人)が下記の活動を行った ・平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動(通常活動・年始を除く開館日毎日) ・ミュージアム・カートに新しいハンズオン教材を追加した(三角縁神獣鏡(復元鋳造)・玉眼模型(天部)) ・特別展覧会「禅一心をかたちにして」ワークショップ「くじ」で出会う 禅の言葉(36日、11,547人参加) ・特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」ワークショップ「龍馬さんからお手紙です!」(38日、8,725人参加) ○ワークショップ実施のため、京博ナビゲーターを対象とした研修会を実施した(14回) ○京博ナビゲーターのモチベーション向上と博物館活動への理解を深める「感謝会」を実施した(1回) イ ・收藏品調査及び社寺調査の補助のため、調査・研究支援ボランティアを受け入れた。(31人) ウ ・文化財ソムリエ(17人)が以下の活動を行った ・京都市内の小中学校への訪問授業(7回) ・京都市中学校総合文化祭における「おしゃべり鑑賞会」(1回) ・「ミュージアムキッズ!全国フェア2016」「ミュージアムキッズフェア in みなみそうま」「プチ・ミュージアムストリート2016」への参加(3回) ○文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(20回) エ ・「京都・らくご博物館」において、大学生をボランティアとして起用した。(16人)								
【補足事項】 (京都国立博物館) ア 京博ナビゲーターは、それぞれ月1回程度来館し、平成知新館内のミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにて活動を行っている。ミュージアム・カートでは、玉眼模型や銅鐸複製などのハンズオン教材に触れることができ、来館者アンケートやナビゲーターへの声掛けでも大変好評なコメントが集まっている。特別展覧会「禅一心をかたちにして」、「没後150年 坂本龍馬」の期間中には、京博ナビゲーターが毎日ワークショップを実施し、合計20,272人の参加者があった。 イ 各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが收藏品調査及び社寺調査の補助を行った。 ウ 文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア(17名)に対して、当館研究員がスクーリング20回を実施。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。本年度は「平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成を受け、小中学校への訪問授業だけでなく、教員との交流会、学校への複製貸出・助言、他館活動の調査なども精力的に行った。								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
ボランティアの受入人数	215人	-	-		45	45	210	214
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に基づき、教育普及補助活動の充実を図ることができた。その他、ボランティア活動の充実を進め、育成等も実施した。ボランティアは昨年度と同程度の人数を受け入れた。							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援し、今中期計画期間の事業の初年度として順調に事業を実施できた。今後も事業を継続し、内容の充実をはかりたい。							


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援							
【年度計画】 (奈良国立博物館) ア ボランティアの各グループ（世界遺産グループ、解説グループ、サポートグループ）の活動の充実を図る。 イ ボランティアの資質向上を目的に、定期的に研修を実施する。 ウ 勉強会や見学会等によって、ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。 エ ボランティアが自主的に実施するガイドツアー等のプログラムの支援を行う。								
担当部課	ボランティア室	事業責任者	室長 石垣 鉄也					
【実績・成果】 (奈良国立博物館) ア ボランティア新制度2期がスタートして2年目になり、世界遺産グループ（51人）、解説グループ（64人）、サポートグループ（35人）の3つの活動がそれぞれ軌道に乗った。世界遺産学習として奈良市の小学5年生（25校1,542人）のほか、学校プログラムとして県内外の幼稚園～高校生、海外からの学生を受け入れた（24校1,701人）。名品展（平常展）では、要所にデスクを設け、年間を通じて、質問対応や解説を行った（合計1,200席）。また、3つのグループ合同で、正倉院展会期中に、講堂ボランティア解説を実施した（17日、97回）。この事業に関しては、教育室がスライド資料と原稿を作成し、ボランティア室が約1ヵ月間の練習立会と指導をした。 イ ボランティアに対して、名品展研修を毎月行う（17回）とともに、特別展、特別陳列の開催ごとに展覧会担当者による展示内容の研修を実施した（6回）。ボランティア全員に解説と自己鍛錬のための学習資料として、全ての展覧会図録を配布した。 ウ ボランティアのグループ別に、毎月の勉強会を実施した（合計38回）。スキルとチーム力の向上を目指し、毎月テーマを設けて指導した。解説グループでは、オブザーバーとして各分野の担当研究員が立会、指導した（9回）。 エ ボランティアによる自主企画として、当館敷地内の茶室庭園の案内ツアーや親子イベントを実施した。また、親睦会や特別展ゆかりの社寺見学会を実施し、ボランティア通信誌を発行してボランティア間の情報共有に努めた。								
【補足事項】 ア・特別陳列「お水取り」のツアー解説を29年3月に実施した（14日64回）。 ・年間を通じ、講座及びイベント等の館事業の支援・補助を行った（合計73回）。 イ・ボランティアと博物館の意思疎通をはかるため、ボランティア会議を定期的の実施した（9回）。 エ・ボランティア通信誌「ブリッジ」を5回発行した。 ・庭園見学ツアーを4月と11月に合計5回実施した。 ・社寺見学会を5月と8月の2回実施した。 ・ボランティア親睦会を12月に実施した。 ・英語解説のために自主勉強会を定期的に行った。 ・世界遺産グループによる、親子のための自主企画イベントを夏休み子ども無料日に実施した（2日間）。 ・グループ毎にスタッフ室の掃除を実施した（10回）。								
								
学校プログラムの実施（世界遺産グループ）								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
ボランティアの受入人数	150人	-	-		121	114	110	157
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新たなボランティア制度の2期目の第2年次にあたって、27年度に引き続き、研究員による名品展研修や特別展、特別陳列の展示内容の研修の実施、館との連携協議、情報共有のためのボランティア会議の開催など、それぞれのグループの活動の充実、資質の向上等を図るための取組を着実に実施した。							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 現在受け入れているボランティアについて新制度の第2年次であり、活動の充実、資質の向上等を図るための取組を着実に実施し、成果を上げているが、登録期限が29年度限りである。このため29年度以降引き続き、教育活動の充実、来館者サービスの向上等に寄与するため、次期のボランティアの募集選考方法、成果の引き継ぎ等について検討を実施した。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																									
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 2) ボランティア活動の支援																									
【年度計画】 (九州国立博物館) ア ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会（日本語、英語、中国語、韓国語）、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生会部の充実を図る。 イ ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。 ウ ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。																										
担当部課	交流課	事業責任者	課長 吉川利幸																							
【実績・成果】(九州国立博物館) ア 来館者対応（案内等）、イベントの実施、館事業への協力など、27年度以上に活動の場を広げることができた。それにより、活動意欲の向上、活動の活性化・充実、そして市民視点の活動の創造が行われた。 イ ボランティア自身の企画・実施による研修等を積極的に実施することで、活動の資質の向上や活性化、発展が行われた。 ウ 各部会において研修やグループ別学習、活動を行った。また、九州国立博物館振興財団の支援によるグループ活動や子どもフェスタにおいて、部会の枠を超えてボランティア同士が活動を行うことができた。																										
【補足事項】 1) 第4期ボランティアを中心に、第3期ボランティアからアドバイスを受けながら活動を行った。開館以来の活動に加え、新たな視点・思いによる活動が加わり、活動の発展や充実が計られた。 ・総ボランティア数（28年度当初）計 307人（手話通訳ボランティア22人含む） 第3期ボランティア（23年4月から活動）数 122人 第4期ボランティア（26年4月から活動）数 163人 ・通常の活動においては、1日平均30～40名、1ヵ月平均延べ1,000人前後のボランティアが、主に午前と午後に分かれて活動している。また、約6割のボランティアが週1回程度で活動をしている。 ・日常の活動は、館内案内、あじっば（体験型展示室）における活動のサポート、文化交流展示室の解説案内、博物館内のIPM活動、土日を中心とした手話通訳による案内。 2) 活動の活性化・発展・創造やボランティアの資質向上を目的に、ボランティア自身の意向に沿った研修や館外研修（視察・交流等）を実施した。 (主な研修)「救命救急講習」「英語対応講座」「古代韓国歴史講座」「古文書講座」「IPM関連講座」等 (主な館外研修先) 「彦根市立一支部博物館」「兵庫県立人と自然の博物館」「兵庫県立考古博物館」「熊本県立装飾古墳館」等 3) イベントやワークショップのみならず、通常の活動において、企画から実施まで、全てボランティアに担わせることで、ボランティア自身や部会（グループ）の主体性や自主性を高めることができた。																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>28年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> <th>経年変化</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボランティアの受入人数</td> <td>307人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>308</td> <td>287</td> <td>352</td> <td>352</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27	ボランティアの受入人数	307人	-	-		308	287	352	352
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27																		
ボランティアの受入人数	307人	-	-		308	287	352	352																		
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 ボランティアの各部会同士の横のつながりを意識したイベントや研修等を27年度よりも多く実施することができた。また、財団支援事業のグループ活動に参加したボランティアの人数が増加したことで、27年度よりも部会の枠を超えたつながりを意識した活動が増えている。 毎月開催のボランティアの連絡会で、行事等の見通しがもてるように行事等の実施3ヶ月前までに情報提供したことで、自主的かつ積極的に活動に参加するボランティアが増えている。																							
【中期計画記載事項】 教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。																										
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 27年度の反省をもとに、学校現場への出前授業に積極的に九博ボランティアに関わってもらった。29年度に向けて、学校側と協議し計画的に九博ボランティアを派遣して行きたいと考えている。また、他県の施設や他館で活動するボランティアとの交流会を定期的で開催することができた。特別支援学校への対応は職員を中心に行っているが、当館が中心となって活躍できるように、事前研修等を実施して対応できるようにしている。																							




衣装体験のお手伝いの様子

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施							
【年度計画】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア インターンシップを継続して実施する。 (東京国立博物館) ア キャンパスメンバーズへの教育連携事業を実施する。 イ 東京藝術大学との連携事業を継続して実施する(大学院生対象)。								
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	総務課長 竹之内 勝典 博物館教育課長 小林 牧					
【実績・成果】 (4館共通) ア 加入校数52校(内訳:法人:3、大学:44、専門学校:2、学部:2、論系:1)本制度を利用し、23,566名の学生、672名の教員が総合文化展を観覧した。なお、特別展割引については、10,626名の学生が利用した。 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び高い職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップを募集し、総務部・学芸研究部・学芸企画部の8部署で10~30日間の活動を行い、16大学22名が修了した。 (東京国立博物館) ア・キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の役割、運営、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について実例を交えたセミナーを実施。また、キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど博物館実務全般について博物館学講座を実施した。 ・日本大学芸術学部と共同で柳瀬荘アートプロジェクトを実施。東洋美術学校クリエイティブデザイン専攻を対象にした授業に協力した。 イ 東京藝術大学との連携事業として、藝大生によるギャラリートークを実施し、学生の貴重な経験となったと同時にお客様へのサービスの充実にもつながった。また、收藏品のうち染織作品の「紅型」をテーマに調査を行い、工程見本の制作と次年度の展示準備を行っている。								
【補足事項】 (東京国立博物館) ア・キャンパスメンバーズ加盟校の学生を対象としたセミナー(8月2日、参加 170人) キャンパスメンバーズ加盟校の学芸員志望学生を対象とした博物館学講座(8月1日~5日、参加 23大学・36人) ・日本大学芸術学部 柳瀬荘アートプロジェクト(9月20日~10月1日)テーマ「間の共振」 参加アーティスト20人、来場人数197人 東洋美術学校 授業名「セールスプロモーション」(5月6日、7月29日)、38人参加 イ 東京藝術大学との連携:藝大生によるギャラリートーク インターン7人 計42回 聴講者1,690人								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価		24	25	26	27
キャンパスメンバーズ加入大学数	52校	-	-	経 年 変 化	38	43	44	48
インターンシップ参加者数	22人	-	-		-	-	-	23
見学対応実施回数	14回	-	-		-	-	-	12
見学対応参加者数	480人	-	-		-	-	-	275
その他大学との連携事業実施回数	1回	-	-		-	-	-	1
その他大学との連携事業参加者数	36人	-	-		-	-	-	37
【年度計画に対する総合評価】 評価:B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズ(加入校52校)及びインターンシップ(参加者21人)による大学等との連携を継続して実施しているほか、東京藝術大学や日本大学芸術学部との連携事業に順調に取り組んでいる。							
【中期計画記載事項】 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。								
【中期計画に対する評価】 評価:B	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップやセミナー、柳瀬荘アートプロジェクトなどの大学との連携事業を通じて人材育成に寄与しており、今後も継続していきたい。東京藝術大学との連携による工程見本の制作・展示については、本館リニューアルなど展示環境の変化等に応じて今後の実施について検討したい。							


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施							
【年度計画】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (京都国立博物館) ア 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 植田義雄 列品管理室長 宮川禎一					
【実績・成果】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携(27校)した。 (京都国立博物館) ア ・京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文社会論講座において、研究員4名によって8科目の授業を担当し、文化財美術作品の実物を教材として研究指導を行った。 ・インターンシップとして、大学院生3名を受け入れた。								
【補足事項】 (京都国立博物館) ア・研究員4名は客員教授3名、客員准教授1名の体制で、京都大学大学院人間・環境学研究科在籍の学生に対し研究指導を行った。博物館収蔵資料のうちほとんど整理されてこなかった京都御所資料(幕末期歴史資料)の調査研究に際して京都大学学生に実地作品の取り扱いや実測・調書作成などの補助作業を担当させ、現物の観察方法や作品調書の作成方法の授業などを行った。 ・京都大学の日本文化研修留学生に対して日本の美術の名品を紹介してその理解の促進をはかった。参加者14名。(1月25日)(教員:京都国立博物館学芸部長 山本英男) ・社寺の作品調査(河内長野市金剛寺)に美術史専攻大学生・大学院生を参加させて文化財の取り扱いの指導をした。参加者5名(10月17日~19日) ・文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装演師連盟の協力を得て、文化財修復に関わる加盟大学院生3名のインターンを文化財保存修理所にて受け入れた。11月28日には平成知新館4F研修室にて3名による報告会を行った。(出席者29名)								
								
写真は文化財調査風景								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経 年 変 化	24	25	26	27
キャンパスメンバーズ加入大学数※	27校	-	-		30	29	29	29
インターンシップ参加者数	3人	-	-		-	-	-	2
連携講座参加者数	6人	-	-		-	-	-	6
見学対応実施回数	2回	-	-		-	-	-	2
見学対応参加者数	35人	-	-		-	-	-	41
その他大学との連携事業実施回数	22回	-	-		-	-	-	1
その他大学との連携事業参加者数	52人	-	-	-	-	-	22	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズによる大学等との連携を継続して実施できた。 また、京都大学連携講座による大学院の学生に対して専門的な教育や論文指導等を着実に実施した。今後も引き続き積極的に専門教育を行う方針である。							
【中期計画記載事項】 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズについては、中期計画初年度である28年度について、27校の加入実績となり、順調に事業を実施できた。今後も積極的に加入校を増やすことに努めたい。 今後も京都大学大学院の学生を指導して計画通り着実に人材育成を行いたい。							


※ 奈良国立博物館との共通加入校含む


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施							
【年度計画】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア インターンシップを継続して実施する。 (奈良国立博物館) ア 奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する(大学院生対象)。 イ 大学、高校において正倉院展に関する特別授業を実施する。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長	室	主任	担当	担当	担当
【実績・成果】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズへの入会の勧誘及び更新を積極的に進めてきた結果、28年度までで入会校数は25校となり、加入大学とは連携を継続した。 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア 立命館大学から3名の学生をインターンシップとして受け入れた。 (奈良国立博物館) ア・奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程に学芸部研究員1名を客員准教授として派遣し、日本アジア古典資料論の講義を行った。講義内容は古典資料講読を中心とし、受講生は前期1人、後期2人であった。 ・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座文化資源論に、学芸部研究員2名を客員教授と客員准教授として派遣し、文化資源論の講義を行った。受講した学生は同研究科の修士課程、博士課程の大学院生7人であった。 イ 京都美術工芸大学にて正倉院展に関する出前授業を実施した。(10月3日)								
【補足事項】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携しワークショップ「描いて飾ろう文殊菩薩」を実施(7月) (奈良国立博物館) ア 奈良女子大学大学院人間文化研究科 ・野尻忠企画室長「日本アジア古典資源論Ⅰ・Ⅱ」 神戸大学大学院人文学研究科 ・岩井共二情報サービス室長、吉澤悟列品室長「文化資源論講座」 イ 京都美術工芸大学 ・清水健工芸考古室長「正倉院展 特別授業」								
								
【定量的評価】								
項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
キャンパスメンバーズ加入大学数※	25校	-	-		27	26	27	27
インターンシップ参加者数	3人	-	-		-	-	-	3
連携講座参加者数	10人	-	-		-	-	-	10
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 大学との連携事業において講座を提供し、歴史・伝統文化の発信に努めたほか、キャンパスメンバーズ加入校との共同で小中学生を対象としたワークショップを実施するなど、教育普及活動を行うことができた。また、インターンシップとして大学生の受入を行い、人材育成に寄与することができた。							
【中期計画記載事項】 インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 大学との連携講座、キャンパスメンバーズ加入校と連携し親子向けのワークショップを実施する等、他機関を交えての事業実施により効果的な人材育成に寄与でき、中期計画に対し順調に成果を上げている。							

※京都国立博物館との共通加入校含む

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 3) 大学との連携事業等の実施								
【年度計画】 (4館共通) ア キャンパスメンバーズ(学校法人会員制度)による大学等との連携を継続して実施する。 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア インターンシップを継続して実施する。 (九州国立博物館) ア 博物館実習生の受け入れを実施する。									
担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長 木川りか 課長 吉川利幸 課長 菅原秀倫						
【実績・成果】 (4館共通) ア・大学等との連携を継続させるため、28年度も募集、実施し、各教育機関(大学・短期大学・高校)が継続で入会した。 加入校内訳(大学15校、短期大学3校、専門学校1校、高等学校6校) (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア 当館の保存修復施設を利用して地域大学との協業を図る短期インターンシップ研修プログラムを実施した。 (九州国立博物館) ア 博物館実習生を13大学17人、計10日間受け入れた。(うちキャンパスメンバーズ校は5大学8人) ○博物館見学実習に対応した。(6件243名)									
【補足事項】 (4館共通) ア・キャンパスメンバーズである福岡女子短期大学音楽科と連携し、カフェコンサートを実施した。 ・会員校の学園祭に協賛した。(5校) ・特典の利用として、文化交流展を3,304人(学生3,129人、教職員175人)、特別展を3,826人(学生3,430人、教職員396人)が観覧した。 ・パスポートを2,254人(学生2,043人、教職員211人)が割引購入した。 ・会員校である筑紫台高等学校は、キャンパスメンバーズ制度を活用し、授業のカリキュラムに当館の特別展観覧を組み込んでいる。 (東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館) ア・装演技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を実施した。 (8月22日～27日の5日間) 九州産業大学2人、佐賀大学1人、広島市立大学1人の計3大学4人が参加した。 屏風の下貼り製作を通じて、修理の基本となる作業を体験できる貴重な機会を提供した。 ・「学芸員技術研修会(資料保存)」(文化芸術振興費補助金(地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業)代表:九州産業大学・美術館・教授 緒方泉氏)を研修室、4階文化交流展示室において実施した。 (講師:博物館科学課長 木川りか) 9月21日 受講者27名 (九州国立博物館) 1)・実習実施期間:7月27日～8月8日(のべ10日間)(合計13大学17人) ・実習内容:博物館の各機能に関するレクチャー、実習(来館者対応、展示企画の立案)等を行った。									
									
<p style="text-align: right;">博物館実習(文化財写真についての講義風景)</p>									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評価		24	25	26	27
キャンパスメンバーズ加入大学数		25校	-	-	経年変化	24	24	24	25
インターンシップ参加者数		4人	-	-		-	-	-	7
見学対応実施回数		6回	-	-		-	-	-	7
見学対応参加者数		243人	-	-		-	-	-	450
その他大学との連携事業実施回数		11回	-	-		-	-	-	12
その他大学との連携事業参加者数		136人	-	-		-	-	-	86
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価: B		13大学17人の博物館実習生を受け入れ、館内各部門と連携・協力し、10日間にわたる博物館実習を実施できた。また、キャンパスメンバーズ加入校との連携事業を年度計画通り順調に実施することができた。							
【中期計画記載事項】									
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。									
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価: B		博物館実習(13大学17人)、インターンシップ(3大学4人)を実施するなど中期計画どおり人材育成に寄与できた。今後も広報周知を行い、大学との連携事業等の取り組みを進めていきたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与								
【年度計画】 (4館共通) 保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。									
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長	高橋裕次					
【実績・成果】 ・文化財保存修復専門家養成実践セミナー（NP0-JCPとの共催） 文化財の保存修復に携わりたいと考えている学生、すでに携わっている社会人が、プロとしての能力を学ぶための広く開かれたセミナーをめざして実施しており、28年度は、23人の受講者があった。 ・インターンシップ 国内で文化財の保存修理を学んでいる大学院生など4名を10日間受け入れた。国内からの4人（日本3、中国1）に対し館内で実施している環境保存、調査、修理の各分野の作業をともに行わせることで、臨床保存の実践方法について、多くのことを学ぶ機会を提供できた。									
									
【写真1.】インターン生と共に行った、保存カルテ、点検調書のデジタル化作業の様子									
・文化遺産の保護に資する研修2016 ユネスコとの共同でカンボジア、ラオス、ミャンマーの国立博物館に勤務する学芸員6名、事務職員、通訳3名に対して「保存修復について」と「文化財の調査分析」について修理室、X線CT撮影室を用いて研修を行った。									
【補足事項】 インターン終了後にインターン生2名が学業の合間にアルバイトとして週に1回の割合で館内の業務の補助を行い、インターン時の経験を活用している。また、当館でのインターン活動に刺激され、当館での活動後に他の文化財関連機関でのインターンに参加したインターン生もいた。									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評価		24	25	26	27
保存修理従事者等を対象とした研修会					経年 変化				
	開催回数	1回	-	-		2	2	2	1
	参加者数	23人	-	-		47	48	37	18
インターン受入人数		4人	-	-	4	8	2	4	
【年度計画に対する総合評価】 評価：A			【判定根拠、課題と対応】 国内外から安定的にインターンを受け入れ、大学教育と補完できる教育が行えた。講義に加えて、実際に業務を体験させることで、充実したプログラムを実施した。						
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 研修会には予想を超える応募者があり盛況であった。中期計画を順調に遂行出来た。博物館におけるインターン制度についても認知が広まり、これまで希望がなかった大学などからも参加者があった。次期中期計画期間も時代の流れに対応した研修プログラムを更新していく。						


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与							
【年度計画】 (4館共通) 保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 大原嘉豊					
【実績・成果】(4館共通) ・毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行った。また、2ヵ月に1回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。(巡回10回・会議7回) ・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会を実施した。(計2回・96人) 5月16日「臨済禅師1150年 白隠禅師250年遠諱記念 禅一心をかたちに一」(55人) 10月17日「没後150年 坂本龍馬」(41人) ・文化財修復に係わる大学院生(3人)のインターンシップ実習(8月15日～8月26日、9月5日～9月16日)を実施し、11月28日に口頭による報告会を開催し(出席者29人)、報告書を作成した。 ・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を9月2日に実施した。(参加者13人) ・国内外博物館における保存科学、修復の専門家等による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換等を行った。(計23回・127人) 5月13日 ブータン王室、Druk Foundation for Art Preservation、通訳(4人) 5月17日 中国河南博物館、奈良国立博物館(3人) 6月2日 文化庁(2人) 6月10日 ギメ東洋美術館(2人) 6月20日 シアトル美術館(3人) 7月19日 中国国家博物館(3人)他17件。 ・11月22日 平成28年度京都府文化財所有者等連絡協議会研修会を国宝修理装演師連盟と協力して開催した。								
【補足事項】(4館共通) ・文化財保存修理所巡回によって、技術者から文化財の修復状況について説明を受け、当館研究員から専門的な立場から指導・助言を行うことで双方の見識にプラスとなった。 ・修理技術者に対する定例の研修会においては、実際の文化財を目にすることにより、修理技術の習得や向上に資することができた。 ・文化財修復に係わる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、修復技術の継承や今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。 ・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は関係教育機の間で周知がすすみ、参加校も増え、優秀な学生が参加するようになった。実際の修理現場の見学・説明といった研修を行うことで、学生の意欲や目的識の向上を図ることができた。								
								
保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会(9月2日)								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定		24	25	26	27
保存修理事業者を対象とした研修会				経 年 変 化				
開催回数	2回	-	-		4	3	2	2
参加人数	96人	-	-		169	140	87	126
インターン受け入れ	3人	-	-		3	4	1	2
大学院生のための研修会参加人数	13人	-	-	29	18	19	22	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 27年度とほぼ同等の事業を遂行し、インターンの受け入れ事業を実施した。京都府文化財所有者等連絡協議会の研修会開催に協力し、所有者に対する修理事業の普及啓発活動を行った点は、初めての試みとして評価されてしかるべきであると思量する。施設見学は困難であるため、講演と出店形式でのワークショップで対応した。							
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業の目標を順調に達成した。京都府文化財所有者等連絡協議会研修会を開催したが、施設の構造上、一般への見学体制を組むことが困難な状況で、今後この種の一般向け普及啓発活動をどのように行うのかが課題と考えられる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与							
【年度計画】 (4館共通) 保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。								
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 鳥越俊行					
【実績・成果】 (4館共通) ・保存修理技術者に対する研修会を29年1月19日に開催した。 ・海外の修理技術者等の視察を5回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。 5月18日：シンシナティ美術館アジア美術担当学芸員らによる視察（4名） 7月28日：ノーザンブリア大学院生の研修（1名） 10月28日：山東省文物保護修復中心職員らによる視察（7名） 29年3月16日：韓国国立羅州文化財研究所研究員らによる視察（2名） 29年3月22日：オレゴン州立美術館職員らによる視察（9名）								
【補足事項】 (4館共通) ・文化財保存修理所技術者研修会 29年1月19日に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した。美術院代表者からの修理に関する報告（「(1) 高尾地藏堂所蔵 木造毘沙門天立像 修理報告 (2) 美術院における図について（修理図解・実測図） (3) 参考資料としてのデジタル画像」）及び討議を行った。（参加者51名）								
								
修理者研修会の様子								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 保存修理技術者に対する研修会を主催し、関係者による報告・討議を行い、修理技術等について理解を深めることができた。また、視察の回数や人数は年により増減があるが、例年並みの実施となった。							
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 海外修理技術者の視察等を受け入れ、文化財保存修理所の修理技術者と海外の技術者の交流を継続して行っている。また、研修会を通じて修理所内の各工房に在籍する技術者間の交流が図られた。これらの活動を通じて文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与できおり、中期計画は順調に進んでいる。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4) 国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与							
【年度計画】 (4館共通) 保存修理従事者を対象とした人材育成に係る事業の実施又はインターンの受け入れや保存修理従事者と協力した事業を開催する。								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 木川りか					
【実績・成果】 (4館共通) ・保存修理事業者を対象とした研修会等を開催した。(計1回・250人参加) ・インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を行った。(計2回・27人参加) ・文化財保存、IPM普及のための講座・研修を開催した。(計3回、合計196人参加)								
【補足事項】 ○保存修理事業者を対象とした研修会等 ・文化財保存交流セミナー「九博バックヤード生活を終えて－基盤作りの一端に携わった14年－」 講師：本田光子(学芸部特任研究員) 日程：29年3月25日 参加人数：250人 対象：一般 ○保存修理事業者と協力した研修会 ・短期インターンシップ「文化財保存修復研修」 日程：8月22日～27日(5日間) 参加人数：4人 対象：関西以西の大学・大学院で保存修復を学ぶ学生 ・「古文書保存基礎講座」 日程：29年1月27日、28日 参加人数：23人 対象：福岡県内を中心とする地域の博物館・美術館・文化財関連機関の古文書等の担当者 主催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館 協力：国宝修理装演師連盟 ○IPM普及のための研修会 ・「環境調査報告会」 日程：6月10日 参加人数：24人 対象：館内環境整備関係者 ・「IPMセミナー・ミュージアムIPM研修」(基礎編・技術編・実践編) IPMセミナー：10月26日、IPM研修：10月27日、28日 参加人数：延べ172人 対象：全国の博物館、美術館等の学芸員								
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評価	24	25	26	27
保存修理事業者対象等の研修会				経年 変化				
開催回数		6回	-		7	6	9	7
参加者数		473人	-		280	139	175	179
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 インターンの受け入れをはじめとする教育普及事業を計6回実施することができ、参加者のアンケートでも高い評価を得た。						
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 地元の教育委員会等と連携し、IPM従事者や修理技術者等の協力を得ながら、実習も積極的に取り入れたプログラムで実践的な研修を中期計画どおりに実施できた。						



文化財保存修復研修

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5)博物館支援者増加への取組							
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び会員制度の活性化を図る。 ア 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 イ 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 ウ 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 エ 展覧会事業の協賛企業から各種支援(協賛・協力)を募る。 オ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。 (東京国立博物館) ア 各種会員制度を整理し、割引の適用や新たな会員制度を導入することで、リピーターの促進や若年層の拡充を図る。								
担当部課	総務部総務課			事業責任者	課長 竹之内勝典			
【実績・成果】 (4館共通) ア 会員数は29年度に開始となる新会員制度への変更に伴う駆け込み需要により、28,939人となり、27年度から大幅増となった。 イ 友の会、賛助会会員を対象に、講演会を実施した。また、賛助会会員を対象に感謝会を実施した。 ウ マスターカードやアメリカンエキスプレスと協同でキャンペーンを行い、認知度の向上に努めた。 エ 一部特別展において、三菱商事株式会社と共催で「障がいのある方のための特別鑑賞会」を実施した。 オ 「上野文化の杜新構想」に基づき、上野全体でイベント等を実施した。国立西洋美術館の世界遺産登録に合わせ、引き続き「上野ウェルカム・パスポート」を発行した。 (東京国立博物館) ア 29年度より会員制度の改定に向けた検討を行い、新たに「国立博物館メンバーズパス(4館共通)」及び東京国立博物館オリジナル制度「メンバーズプレミアムパス」「友の会」を導入することとなった。								
【補足事項】 ア 賛助会会員数455人の内訳は個人391人(プレミアム3人、特別8人、維持380人)、団体64団体(特別19団体、維持45団体)である。								
 <p>平成28年度賛助会感謝会の様子</p>								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価		24	25	26	27
賛助会等支援組織の会員数	28,939件	-	-	経 年 変 化	18,471	18,439	23,899	23,451
賛助会会員数	455件	-	-		332	379	414	464
友の会会員数	2,337人	-	-		1,570	1,586	2,145	2,041
パスポート会員数 (ベーシック会員含む)	26,147人	-	-		16,569	16,474	21,340	20,946
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 会員制度については、27年度末の制度変更に伴う駆け込み需要もあるが、会員数は大幅増となった。賛助会は、団体会員が62団体から65団体へと微増となっている。新たな会員制度の導入による会員制度の活性化もあり、全体の支援組織の会員数は増加傾向にある。企業等と連携することで賛助会等の制度について認知度を高めるとともに、展覧会における企業との連携による事業も継続して実施することができた。「上野ウェルカム・パスポート」については好評を得ており、時事に合わせたデザインや特典を盛り込み使用率が向上している。 新たな会員制度の導入にあたっては、利用者の理解促進のため周知広報を広く行った。							
【中期計画記載事項】企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 会員数は展覧会の内容などにより増減する。その中において、現状維持できていることは、中期計画において順調であるといえる。新たな会員制度を導入したことについて周知を行いさらなる会員の増加及び上位会員への移行に努めたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																											
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5)博物館支援者増加への取組																																											
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び会員制度の活性化を図る。 ア 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 イ 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 ウ 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 エ 展覧会事業の協賛企業から各種支援(協賛・協力)を募る。 オ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。 (京都国立博物館) ア 支援団体等が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。 イ ミュージアムパートナー制度及び文化財保護基金制度を活用し、企業等との連携を図る。 ウ 海外を含む企業等と連携し施設を有効活用することで、博物館の認知度向上を図る。 エ 近隣の自治体をはじめとする諸団体との連携の推進を図る。																																												
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 植田義雄 企画室長 伊藤信二																																									
【実績・成果】(4館共通) ア 「パスポート」事業を継続し、リピーターの拡大に努めた。 イ 「パスポート」会員を対象とした事業を実施した。 ウ ・JR京都伊勢丹とオリジナルグッズの共同開発を行い、同社が発行する広報印刷物にてオリジナルグッズが紹介されるとともに、展示中の当館蔵品もメインビジュアルとして掲載し当館の認知度向上につながる広報を行うことができた。 ・凸版印刷株式会社と連携し、新春イベント「新春 京博こと始め2017」を開催した。 ・タクシー乗務員向けの特別鑑賞会を実施し、広報協力を得ることができた。 ・京都府内のホテル及び旅館等の社員向けの特別鑑賞会を実施し、広報協力を得ることができた。 エ 当館主催イベント「音燈華コンサート」及び「京都国立博物館COUNTDOWN2016→2017」の際に、共催として大和ハウス工業より協賛を受けた。 オ 開催時期にあわせ、特集陳列を開催することの検討を始めた。 (京都国立博物館) ア 支援団体(一般社団法人清風会)が行う鑑賞会(4回)・見学会(4回)・会報(4回)の解説・執筆及び、総会の開催に協力した。 イ 「ミュージアムパートナー」制度について引き続き周知を続けた結果、企業2社が新たに加わった。 ウ 企業等に対し、平成知新館を有償で貸与する等、建物の有効活用を行うことにより博物館の認知度向上を図った。 エ 近隣の美術館・博物館の諸団体等と広報活動やイベント等を実施し、連携推進を図った。																																												
【補足事項】(4館共通) ア 「パスポート」事業を28年度で終了することを告知するとともに、29年度より開始する「国立博物館メンバーズパス」の広報を行った。 イ 当館ミュージアムショップにおいて、「パスポート」提示により、グッズ等が10%引きで購入できる等の特典がある。 ウ 京都の飴屋「クロッシェ」制作の「トラりん手鞠」をオリジナルグッズとして開発し、12月13日より販売開始した。 (京都国立博物館) エ・京都市内4美術館・博物館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館)で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携事業として、4館相互割引、広報のための合同パンフレットの製作、連携フォーラムやスタンプラリーなどを実施した。																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>28年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> <th>経年変化</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>賛助会等支援組織の会員数</td> <td>5,863件</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>3,417</td> <td>2,631</td> <td>6,873</td> <td>7,476</td> </tr> <tr> <td>清風会及びミュージアムパートナー会員数</td> <td>370件</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>353</td> <td>336</td> <td>351</td> <td>368</td> </tr> <tr> <td>パスポート会員数</td> <td>5,493人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>3,064</td> <td>2,295</td> <td>6,522</td> <td>7,108</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27	賛助会等支援組織の会員数	5,863件	-	-		3,417	2,631	6,873	7,476	清風会及びミュージアムパートナー会員数	370件	-	-		353	336	351	368	パスポート会員数	5,493人	-	-		3,064	2,295	6,522	7,108
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27																																				
賛助会等支援組織の会員数	5,863件	-	-		3,417	2,631	6,873	7,476																																				
清風会及びミュージアムパートナー会員数	370件	-	-		353	336	351	368																																				
パスポート会員数	5,493人	-	-		3,064	2,295	6,522	7,108																																				
【年度計画に対する総合評価】 評価：B 【判定根拠、課題と対応】 企業と共同で開発したオリジナルグッズを通じて企業が発行する広報誌に当館を紹介してもらうなど、博物館支援者増加のための新たな広報展開を行うことができた。パスポート会員数5,493人で、平成25年に平成知新館が開館して以来の減少となり、前年度を上回ることができなかった。原因として、明治古都館休館に伴う平成知新館での特別展覧会開催により、特別展の前後に展示替え等のため名品ギャラリー休止期間が生じたこと、平成知新館開館による集客効果が落ち着きをみせ、入場者数そのものが前年より少なかったことが挙げられる。今後は、特集展示の魅力や夜間開館の実施等をアピールし、入会者率の増加を目指したい。																																												
【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。																																												
【中期計画に対する評価】 評価：B 【判定根拠、課題と対応】 企業や近隣の美術館及び博物館等とともにイベント等を実施し連携を深めることができた。会員制度については、新制度「国立博物館メンバーズパス」を活用しリピーターの拡大を図る必要があると考える。																																												



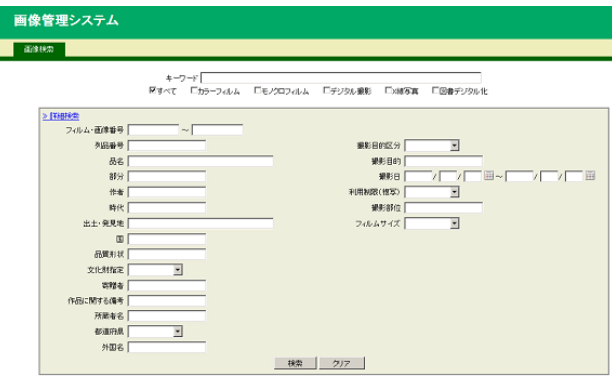
トラりん手鞠 パッケージ


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5)博物館支援者増加への取組							
<p>【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び会員制度の活性化を図る。 ア 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 イ 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 ウ 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 エ 展覧会事業の協賛企業から各種支援（協賛・協力）を募る。 オ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。 (奈良国立博物館) ア 支援団体等との連携により施設を活用したイベント等を実施し、博物館支援の輪を広げる。 イ 支援団体等と連携し、展覧会の充実を図る。 ウ 賛助会員制度の継続・拡充を図る。 エ 地域、企業との連携を推進する。</p>								
担当部課	総務課	事業責任者	課長 室溪 浩					
<p>【実績・成果】 (4館共通) ア パスポート会員 会員数3,739人(一般3,597人、学生106人、家族36人) イ 賛助会員を対象とした解説付き鑑賞会を実施した。 ウ 株式会社日本香堂提供のラジオ番組で、展覧会のPRを行った。 エ 他の主催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。 オ 外国人向け冊子「ミュージアム・3DAYSフリーパス・関西」の販売を開始した。 (奈良国立博物館) ア 支援団体等が主催する展覧会の解説付の鑑賞会の実施に協力した。 イ 特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。 ウ 賛助会員23団体50人(特別支援会員：4団体、特別会員：4団体、一般会員(団体)：15団体、一般会員(個人)：50人) エ 観光関連業界と連携し顧客層の開拓を行った。</p>								
<p>【補足事項】 (4館共通) イ 賛助会員に対する特別鑑賞会を実施するなど、あらゆる機会を通じて会員獲得に対する努力を行った。 エ 日本香堂の寄附により作成した仏像彫刻の解説冊子『仏像を観る』(日本語版、英語版)を館内設置の修理募金への寄附者に配付した。 (奈良国立博物館) エ 奈良の観光イベント「ライトアップブロードナード・なら2016」、「なら燈花会」、「なら瑠璃絵」に対して協力した。</p>								
 <p>「なら燈花会」</p>								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
賛助会等支援組織の会員数	3,812件	-	-		2,554	2,668	3,235	3,665
賛助会会員数	73件	-	-		68	70	73	74
パスポート会員数	3,739人	-	-		2,486	2,598	3,162	3,591
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 新規会員の獲得に向けて積極的に取り組みを行いパスポート会員が昨年度比148名増となった。また、観光イベント「なら燈花会」の会場として参加して、地域活性化に協力するとともに夜間来館者の増加を図った。</p>							
<p>【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。</p>								
【中期計画に対する評価】 評定：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 賛助会員を対象とした解説付き鑑賞会を実施するなど支援者の継続を図り、会員制度の広報及び募集を継続的に行った。また、29年度から開始する新たな会員制度「奈良博プレミアムカード」についても、今後、会員の獲得に向けて積極的な取り組みを行う。</p>							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																											
事業名	(3) 教育・普及活動 ①教育活動の充実等 5) 博物館支援者増加への取組																																											
【年度計画】 (4館共通) 企業との連携及び会員制度の活性化を図る。 ア 会員制度によるリピーターの拡大に努める。 イ 会員制度利用者を対象とした事業を実施する。 ウ 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 エ 展覧会事業の協賛企業から各種支援(協賛・協力)を募る。 オ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本文化を発信する各種事業を検討する。																																												
担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長 吉川利幸 課長 古川晶一 課長 菅原秀倫																																									
【実績・成果】 ア 「友の会」等の会員制度を継続して実施した。 イ 「友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、トピック展チラシ等の送付を行った。 ウ 支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施し、広報活動の充実を図った。 エ 展覧会事業への企業からの協賛・協力を得た。 オ 既存のものも含め、館内表示等の多言語化対応の見直し等の検討を実施した。																																												
【補足事項】 ア 年間パスポートについて検討した結果、29年4月からメンバーズプレミアムパスに改定することにした。それに伴い、広報を実施した。 ウ ・西日本新聞社及び(公財)九州国立博物館振興財団との共同事業として、国指定重要無形民俗文化財で28年にユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の一つとして登録された「博多祇園山笠」の飾り山を、開館以来毎年連続してエントランスに展示した。 ・支援団体である九州国立博物館を愛する会及び近隣市町の小学校と連携して、子どもたちを対象にしたワークショップイベントや児童画展を開催した。 ・地元の福岡女子短期大学と連携して館内のカフェで定期コンサートを実施した。																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>28年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> <th>経年変化</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> <th>27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>賛助会等支援組織の会員数</td> <td>6,016人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>4,420</td> <td>4,774</td> <td>5,182</td> <td>5,777</td> </tr> <tr> <td>友の会会員数</td> <td>268人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>196</td> <td>141</td> <td>192</td> <td>206</td> </tr> <tr> <td>パスポート会員数</td> <td>5,748人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td>4,224</td> <td>4,633</td> <td>4,990</td> <td>5,571</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27	賛助会等支援組織の会員数	6,016人	-	-		4,420	4,774	5,182	5,777	友の会会員数	268人	-	-		196	141	192	206	パスポート会員数	5,748人	-	-		4,224	4,633	4,990	5,571
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27																																				
賛助会等支援組織の会員数	6,016人	-	-		4,420	4,774	5,182	5,777																																				
友の会会員数	268人	-	-		196	141	192	206																																				
パスポート会員数	5,748人	-	-		4,224	4,633	4,990	5,571																																				
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 特別展共催者等の申し入れもあり、友の会、パスポートの積極的な広報は控えざるを得なかったが、友の会会員数は増加した。リピーター獲得のため、29年度から開始する新しい会員制度や、友の会の特典内容について検討し、事前に告知を行うことができた。企業や支援団体との連携の下、各種イベントを実施し、博物館の認知度向上に寄与した。																																										
【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。																																												
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 友の会会員数を大幅に増やすことができた。博物館支援者増加のために、パスポート及び友の会の会員特典について検討し、29年度から新たな特典を提供できることとなった。また、支援団体と共催でイベントを開催する等、企業及び支援団体との連携も順調に進んでいる。																																										



カフェコンサートの様子

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信								
<p>【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。 イ 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。</p>									
担当部課	学芸企画部博物館情報課	事業責任者	博物館情報課長 田良島 哲						
<p>【実績・成果】 (4館共通) ア 収蔵品のデジタル画像を資料館およびインターネットで公開した。 イ 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。またiOS、Androidそれぞれのアプリ版「e国宝」を継続して公開した。</p>									
<p>【補足事項】 (4館共通) ア 以下のURLでインターネットに公開している画像およびテキストデータについて、非商業目的での利用条件を緩和し、一層の利用促進を図った。 http://webarchives.tnm.jp/ イ 2)各アプリ版「e国宝」の年度末時点でのダウンロード件数累計は以下の通りである。 ・iOSアプリ568,173件(23年1月20日リリース)参考:26年度末時点549,902件 ・Androidアプリ189,351件(25年2月6日リリース)参考:26年度末時点184,456件 ○ 本館19室において、「e国宝」のデータをタッチパネルで閲覧する「トーハクで国宝をさぐる」及び三次元計測データをジェスチャーで操作する「トーハクをまわそう」をそれぞれ継続して公開した。 ○ 4館共通所蔵品データベース「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」の運用を開始した(29年3月27日)。</p>									
									
<p>画像管理システム (資料館来館者向け画面)</p>									
【定量的評価】	項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
<p>評定：B</p>		<p>デジタル画像の公開については資料館、インターネットともに大きなシステム障害もなく順調である。また、利用条件の一部見直しにより一層の利用促進を図ることができた。「e国宝」についてもウェブサイト、アプリ及び本館における来館者端末での公開を継続することができた。また、「国立博物館所蔵品統合検索システム ColBase」の運用を開始することができた。</p>							
【中期計画記載事項】									
ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。									
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
<p>評定：B</p>		<p>デジタル画像の公開を継続することにより、文化財に関連する情報の公開を適切に行うことができた。今後も公開を継続するとともに、公開件数を増加させていきたい。e国宝については29年度以降、利用端末等の環境の変化に対応したアプリの更新と、公開手法の見直しに着手する。</p>							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信							
【年度計画】								
(4館共通)								
ア 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。								
イ 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。								
(京都国立博物館)								
ア 収蔵品の国宝・重要文化財・その他名品について6言語(日、英、中、韓、仏、西)の説明を付した国宝重要文化財・名品 高精細画像閲覧システムを継続して公開する。								
イ 平成知新館レファレンスコーナーの情報閲覧システムにて、収蔵品の画像等を公開する。								
ウ デジタルサイネージや無線LAN等の情報処理技術を活用し、来館者に対する効果的な情報発信を図る。								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 宮川禎一					
【実績・成果】								
(4館共通)								
ア 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及び、公開収蔵品データベースの登録および更新を随時行い、公開情報サービスを継続して行った。								
イ 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して653件公開した。								
(京都国立博物館)								
ア 京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」を継続して公開した。								
イ 収蔵品データベースにおいて画像や解説等を適宜更新し、平成知新館レファレンスコーナーの情報閲覧システムを通じ継続して公開した。								
ウ 平成知新館1階エントランスホールと各階展示室前に設置されているデジタルサイネージのコンテンツを収蔵品の展示等に合わせて適宜更新したほか、有線・無線各LAN等の情報システムを通じ、来館者に対する効果的な情報発信に努めた。								
【補足事項】								
(京都国立博物館)								
ウ 平成知新館に設置のデジタルサイネージに、展覧会情報と展示作品の画像を表示し、来館者にとってわかりやすい情報発信を図った。								
								
特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」におけるデジタルサイネージ(平成知新館1階西側設置)								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】							
評価：B	平成知新館レファレンスコーナーやデジタルサイネージを通して、来館者に対する効果的な情報発信を図るとともに、京都国立博物館所蔵国宝重要文化財・名品高精細画像公開システム「KNM GALLERY」を継続して公開し、年度計画どおりに事業を実施できた。							
【中期計画記載事項】								
ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。								
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】							
評価：B	ウェブサイト等において、画像や解説を継続して公開した。 館蔵品データベースの28年度公開データを177件増加させ、中期計画どおり順調に事業を実地出来た。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信								
<p>【年度計画】</p> <p>(4館共通)</p> <p>ア 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。</p> <p>イ 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>ア 仏教美術情報の公開・普及を図る。</p> <p>イ 「日本美術院彫刻等修理記録データベース」について、仏教美術資料研究センターでの公開と、ウェブサイト上でのテキストデータ公開を継続する。</p>									
担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長 宮崎幹子						
<p>【実績・成果】</p> <p>(4館共通)</p> <p>ア 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行った。</p> <p>イ 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <p>ア 仏教美術情報の公開・普及を図るべく、既存フィルム of デジタル化や新規撮影を行い、関連データを整備して、仏教美術資料研究センター並びにインターネットで公開した。</p> <p>イ 「日本美術院彫刻等修理記録データベース」について、仏教美術資料研究センターでの公開と、ウェブサイト上でのテキストデータ公開を継続した。</p>									
<p>【補足事項】</p> <p>収蔵品並びに画像データベースの内容を充実すべく、画像・テキスト情報を逐次更新しているが、情報公開をさらに促進させて利用者へのサービスを拡充するために、収蔵品画像データの無償ダウンロードについて検討し、28年3月からこれを実施している。従来、画像データの提供は、収蔵品その他すべての画像について、特別観覧の手続きを経てDVDに焼き付けたものを郵送することで対応していた。現在のシステムでは、インターネットで公開している収蔵品・画像データベースで表示される収蔵品の画像データについて、利用者が自身でダウンロードが可能である。無償ダウンロードが可能な画像は、長辺4,000ピクセルの高解像度のもので、学術・教育目的のものであれば、課金無しで利用可能である。これにより、博物館が蓄積している高品質の情報を社会に還元する方法がさらに充実し、サービス向上に資するものとなった。</p>									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-		-	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		<p>【判定根拠、課題と対応】</p> <p>デジタル撮影(4290件)、既存原板のデジタル化(3081件)、データベースへの登録件数(4936件)ともに例年に準じた成果をあげており、所期の目標を達成したといえる。</p>							
<p>【中期計画記載事項】</p> <p>ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。</p>									
【中期計画に対する評価】 評価：B		<p>【判定根拠、課題と対応】</p> <p>各事業の数値が例年に準じたものとなるだけに留まらず、情報の発信についても新たな試みを実施するなど、機能・サービスの強化を図っている。今後はモノクロポジフィルムのデジタル化など残された事業を進める予定である。</p>							



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信								
【年度計画】 (4館共通) ア 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びウェブサイト等での公開を継続して行う。 イ 収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開する。 (九州国立博物館) ア 収蔵品に関する基本情報の公開活用に向けた情報整備を推進する。 イ 対馬宗家文書、装飾古墳、郷土人形データベース等の効率的な運用を検討し、実施する。 ウ 海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。									
担当部課	学芸部文化財課 学芸部企画課	事業責任者	課長 富坂 賢 課長兼文化交流展室長 河野一隆						
【実績・成果】 (4館共通) ア・「収蔵品ギャラリー」を全面的にリニューアルし利用者の利便性を高めた。展示情報とリンクすることで、当館の収蔵品の普及をいっそう推進した。 イ・収蔵品の国宝・重要文化財について、5言語(日、英、中、韓、仏)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)を継続して公開した。 (九州国立博物館) ア・収蔵品ギャラリーのリニューアルに際して収蔵品情報・画像の整備を行い、収蔵品データベース上で公開活用の管理ができる体制を整えた。 イ・対馬宗家文書のデータベースは公開運用しつつ、データを一元的に管理する基盤を構築した。 ・装飾古墳データベースでは現地調査を行ってきたインドネシアの装飾古墳等の成果をふまえた解説を追加した。また配信サーバの償却期間が終了したため、新規サーバを購入し、新たなコンテンツを追加して内容の充実につとめた。 ・郷土人形データベースでは、新規にデータ登録を行ったほか、新たなARコンテンツとしてARマーカーにデバイスをかざすと作品情報がポップアップするようなシステムを構築した。また、データ作成等をボランティア・資料整理部と共に行った。 ウ・海外調査を含む個人研究を月1回定例で開催する研究会議で公表し、研究成果を共有するための基盤を構築した。									
【補足事項】 (九州国立博物館) ア 27年度より検討・整備を重ね、9月にリニューアルした「収蔵品ギャラリー」は、①画像一覧から選択する、②メタデータを検索する、という2種類の方法から収蔵品の情報にアクセスできる。また、館内のシステムとの連動により展示予定期間も掲載されており、利用者がウェブサイト上で有益な情報を得ることに寄与している。29年度以降も引き続き、公開情報の充実を図る予定である。									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 収蔵品に関する基本情報の公開活用に向けた情報整備として、ウェブサイト「収蔵品ギャラリー」を一新して、公開を開始した。陳列案とのリンクが達成され、収蔵品の情報提供に係る利便性が著しく向上した。装飾古墳、郷土人形データベースを拡充・充実させつつ、公開した。また対馬宗家文書データベースの構造を見直し、データを一元的に管理する作業を進めた。							
【中期計画記載事項】 ウェブサイト等において文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイト「収蔵品ギャラリー」を一新して、公開を開始した。公開にあわせ、情報の充実・拡大を図るなど、中期計画の初年度として順調である。							




装飾古墳データベース





収蔵品ギャラリー



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 2)資料の収集と公開							
【年度計画】 (東京国立博物館) ア 調査研究・教育など博物館の機能全般に関わる情報及び関係資料を収集・蓄積し、広く一般に公開する。 イ 博物館における情報資源の活用に向けて、各種資料のデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。 ウ 資料館の機能の拡充に向け、施設・設備の見直しを含めた、利用計画を策定する。								
担当部課	学芸研究部博物館情報課	事業責任者	博物館情報課長 田良島 哲					
【実績・成果】 (東京国立博物館) ア・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、9,848件の図書および逐次刊行物の収集・整理を行った。 ・画像管理システムに画像データ8,968件を登録し、既存データ2,066件の修正を行って正確な情報の提供に努めた。 ・洋書12冊のデジタル撮影を行った。また昨年度図書館振興財団の助成で撮影したシーボルト旧蔵本の画像を追加し、タイトルの日本語訳をつけて「シーボルト旧蔵本デジタル・アーカイブ」において公開した。 ・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。(入館者 4,730人) ・資料の保存のため、雑誌の合冊製本及び図書の再製本・保存箱の作成を行った。(雑誌製本 462冊、修理・箱作成 52冊) また、戦前の当館刊行物173冊について、脱酸化処理を実施した。 イ・主に『MUSEUM』82冊の収録論文について、掲載されている当館の所蔵品の列品番号を調査し、図書館システムの該当資料にその情報を入力した。また、当館開催の特別展(戦後分)の出品作品データベースを作成・維持した。 ・『東京国立博物館資料館 調べ方ガイド 2 図書・雑誌を探す』、『東京国立博物館資料館 調べ方ガイド 3 雑誌記事・論文を探す』を作成し、資料館で配布するとともに、webで公開した。 ウ・国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供開始に向けて資料館所蔵資料の利用についての規程類を整備した。								
【補足事項】 ア・図書資料収集・整理の内訳は、新規受入図書 5,313冊、既存図書の遡及入力1,409冊、逐次刊行物の新規受入3,126冊である。別に洋雑誌1,722冊について、管理のため製本単位でのバーコード貼付と所蔵データの作成を実施した。 ・毎月の新着図書・雑誌・展覧カタログについて閲覧室の新着資料コーナーに一部を展示するとともに、図書・カタログについてはそれぞれ新着資料リストを作成、公開した。 イ・5回の特別展にあわせて特別展関連図書コーナーを設置し、資料館及び展示会場インフォメーションにて関連図書リストを配布した。 ・『東京国立博物館ニュース』及びライブラリーニュース(OPAC)に記事を掲載し、資料館からの情報発信に努めた。 ウ・委託業者の変更にとまひ、マニュアルを始め、各種記録を整備した。								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 収蔵品・出品作品等の撮影、各種データの整備、図書等の収集・整理のほか、文献についての調べ方ガイドの作成や、脱酸化の事業など、公開のための基盤整備を継続して行うことができた。また、委託業者が変更になったが連絡を密に行い、定型業務を円滑に実施できた。							
【中期計画記載事項】 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実にも努める。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 情報の収集等に順調に取り組むとともに、資料利用規則の制定や、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの29年度からの実施準備など永年にわたって課題となっていた案件および新規の案件について実績をあげることができた。29年度以降、情報公開拠点としての運営方針について検討を行う。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 2)資料の収集と公開							
【年度計画】 (京都国立博物館) ア 資料・画像・蔵書等の各研究支援データベースや研究情報ストレージについて整備を継続して実施し、資料の保守・管理や検索性を向上させる。								
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 宮川禎一					
【実績・成果】 (京都国立博物館) ア ・画像データ・科学調査データの増加に伴い、研究情報ストレージを構成する iSCSI ストレージプールについてファイルシステムの見直しを行い、データを一度退避・初期化し直して領域を最適化する等の各種調整を行った。また、収蔵品データベース、修復文化財・社寺調査データベース等の各研究支援データベースについて、マシンが実際に消費していた CPU やディスクの容量と、研究系仮想サーバの処理能力を分析し、仮想マシンの移行やディスク割り当ての見直し等各種調整を行った。 ・平成知新館 2 階レファレンスコーナーにおいて、情報閲覧システムを通じ、来館者に対して館蔵品データの提供を継続して行った。また、平成知新館 1 階エントランスホールと各階展示室前に設置されているデジタルサイネージに展示情報を表示されることにより、来館者にとってわかりやすい情報発信を継続して行った。 ・収蔵品、出品作品等の新規撮影は、5,710枚行った。 ・調査、研究、教育等に資するため、図書資料においては、新規図書3,293冊、逐次刊行物1,614冊を収集した。								
【補足事項】 ・当館の展覧会出品作品の撮影は、特別展覧会「禅-心をかたち-」（4月12日～5月22日）、「没後150年 坂本龍馬」（10月15日～11月27日）、また、平成29年4月11日開催予定の京都国立博物館開館120周年記念特別展覧会「海北友松」を対象にして進めた。 ・特集陳列における図録・チラシ・ポスターを制作のため作品の撮影を行った。 ・劣化が激しいフィルム保存箱を保存に適した収納箱への移し替え作業を継続して行った。 ・重要度の高いマイクロフィルムのデジタル化を行った。								
								
マイクロフィルム								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 研究情報ストレージ装置や各研究支援データベースについて見直し及び必要な調整・整備を行った。また、特別展覧会に伴う収蔵品等の新規撮影や図書資料の収集を計画的に行うことができた。							
【中期計画記載事項】 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について新規図書3,293冊、逐次刊行物1,614冊を収集し、計画通りに蓄積できた。また、デジタルサイネージ等を利用してわかりやすい情報発信に努めた。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 2)資料の収集と公開							
【年度計画】 (奈良国立博物館) ア 図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、内外の利用者に対してサービスの充実を図る。								
担当部課	学芸部資料室	事業責任者	室長 宮崎幹子					
【実績・成果】 (奈良国立博物館) ア 図書情報システム及び写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、デジタル撮影4,290件、既存原板(カラーフィルム)のデジタル化3,081件、データベースへの登録件数4,936件を行った。 また、内外の利用者に対してサービスの充実を図るべく、仏教美術に関連する図書資料の収集を積極的に行った。(和書1,990冊、漢書23冊、洋書50冊 計2,063件)								
【補足事項】 27年に引き続き、「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」(同実行委員会主催)への協力をを行い、仏教美術資料研究センターにおいて、海外日本美術資料専門家(司書)の受け入れ、研修並びに見学を実施した。同事業では7ヶ国9都市より9名の専門家を招へいし、12日間にわたって研修並びに交流事業を行っているが、そのうちの1日を当館での現地研修・見学にあてている。この研修・見学は、海外における美術に関わる情報の利用者の声を直接聞くことのできる貴重な機会であり、当館が運用する各種データベースに関しても積極的に質問や意見交換がなされている。この機会に得られた評価は、データベースの操作性の改善や画像の無償ダウンロードの実現などにも活かされており、今後とも情報公開のあり方に積極的に活用していきたいと考えている。								
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 資料の収集・蓄積、仏教美術資料研究センターの利用者とともに例年に準じた数値をあげており、所期の目標を達成しているとみなされる。また、「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」による招へい数は7カ国9都市を数え、他国の専門家との意見交換で得られた情報は活用を図っていきたい。							
【中期計画記載事項】 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を努める。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 数値的に当初の目標を達成しているだけにとどまらず、海外からの研修生を受け入れるなど、情報の発信と充実が多方面から取り組んでいる。近い将来、図書資料の増加に伴い保管施設の確保などの問題に対応する必要がある。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 2)資料の収集と公開							
【年度計画】 (九州国立博物館) ア 蔵書管理システム及び画像管理システムにおけるデータベースの充実・構築に努め、内外の利用に供することを図る。								
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 富坂 賢			
【実績・成果】 (九州国立博物館) ア 蔵書管理 ・新規に図書753点、雑誌798点、図録・報告書2,455点を購入または受贈し、蔵書管理システム（日本事務器製ネオシリウス）に登載した。 ・開館以後、受贈申込を受けていた個人からの寄贈図書を、すべて整備・登録し終えた。 (田中建夫寄贈図書11,618点（25年度）、麻生優寄贈図書14,371点（26年度）、石井進寄贈図書2,729点（28年度）) ・蔵書のうち蔵書管理システムへの所蔵登録を継続し、28年度は28,813点(27年度40,470点)の所蔵情報を点検・登録した。 画像管理 ・27年度より日本写真印刷コミュニケーションズ製文化財情報システムの一部として運用を開始した画像管理システムを、より業務に適した作業が行えるように改修した。 ・登録した画像を収藏品管理システムと連動させ館内業務に活用するとともに、当館Webサイトで外部へ公開した。								
【補足事項】 (九州国立博物館)								
								
蔵書管理システムトップページ				寄贈図書の配架状況				
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 新規に図書753点、雑誌798点、図録・報告書2,455点を購入または受贈し、蔵書管理システムに登載している蔵書データの遡及整備を着実に実施した。画像管理システムは、収藏品管理システムと連動させつつ、Webサイト収藏品ギャラリーのリニューアルに結びつけた。							
【中期計画記載事項】 美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画初年度は、30年度を目標として、当館の蔵書データを一般公開するための基盤整備(図書データの書誌・目録整備を遂行)を推進した。画像管理システムは、Webサイト収藏品ギャラリーのリニューアルに結びつけるため、データベースの充実に努めた。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供								
【年度計画】 (機構本部) ア 機構の概要、年報を作成する。 イ 機構本部ウェブサイトを活用し、機構に関する情報の提供を行う。									
担当部課	本部事務局総務企画課			事業責任者	課長 木村守平				
【実績・成果】 (機構本部) ア 『独立行政法人国立文化財機構概要 平成28年度』（日本語版・英語版）を28年6月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。 『独立行政法人国立文化財機構年報 平成27年度』を28年12月に発行し、PDF版をウェブサイトに掲載した。 イ 機構本部ウェブサイト (http://www.nich.go.jp/) の運用を継続した。随時掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。 ○当機構設立10周年を記念してロゴマークを作成した。									
【補足事項】 ア 『独立行政法人国立文化財機構概要 平成28年度』は、日本語版と英語版を別冊子に分けて作成した。(日本語版：2,100部、英語版カラー600部。いずれもカラー25ページ)。 『独立行政法人国立文化財機構年報 平成27年度』：210部、カラー4ページ・モノクロ1094ページ。 イ 機構本部ウェブサイトアクセス件数：220,638件									
 <p>『独立行政法人国立文化財機構概要 平成28年度』 (日本語版・英語版)</p>			 <p>独立行政法人国立文化財機構 ウェブサイトトップページ</p>			 <p>独立行政法人 国立文化財機構 ロゴマーク</p>			
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 年度計画どおり、概要、年報を作成し、ウェブサイトの運用を行った。また、概要の表紙等のデザインや、年報の目次の新設等、見直しと改善を行った。機構に関する情報の提供を実施できた。							
【中期計画記載事項】 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、印刷物の作成、ウェブサイトの運用による情報提供を行うことができた。29年度以降も引き続き、自主媒体のほかロゴマークの多方面での活用等、積極的な広報に努める。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供								
<p>【年度計画】 (4館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (東京国立博物館) 総合文化展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 ア 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 イ 春の「博物館でお花見を」、秋の「博物館でアジアの旅」、正月の「博物館に初もうで」を軸とした総合文化展の広報の企画・運営を行う。</p>									
担当部課	学芸企画部広報室			事業責任者	広報室長 鬼頭智美				
<p>【実績・成果】 (4館共通) ア 年間スケジュールリーフレットを制作し(35,000部)、送付及び館内配布した。 (東京国立博物館) ア『東京国立博物館ニュース』(隔月刊・30000部)や、総合案内パンフレット「案内と地図」(7言語8種：日151,000部、英85,000部、中(簡体字20,000部・繁体字10,000部)、韓47,000部、仏14,000部、独9,000部、西9,000部)、「展示・催し物のご案内」(35000部)を作成、配布した。また、東京国立博物館広報大使として、「トーハクくん」「ユリノキちゃん」を設定、PRチラシを作成・配布、さらに着ぐるみを作成・活用し、館内外のイベントにおいて当館をアピールした。 イ 「博物館でお花見を」、「博物館でアジアの旅」、「博物館に初もうで」、特別公開や特集「生誕百年記念 小林斗盒 篆刻の軌跡—印の世界と中国書画コレクション—」などにおいて、チラシ、パンフレット、ポスターなど各種広報印刷物を作成・配布し、また当館ウェブサイト・SNSによる告知を行った。</p>									
<p>【補足事項】 (東京国立博物館) ア 広報大使の活動の一環として、「トーハクくん」「ユリノキちゃん」を「ゆるキャラ®グランプリ」にエントリー、ブース出展も行い、広く当館の存在をアピールした。これによりSNSでのフォロワーが増加、一般への認知度を高めた。 イ 「博物館でアジアの旅」の開始と同時に当館広報公式のインスタグラムによる情報提供を開始、JTBパブリッシングとのコラボレーションも実施し、新規利用者獲得に貢献した。また、初めて中国人向けに「WeChat」での告知を行い、訪日中国人へのアプローチを試みた。</p>									
						ゆるキャラ®グランプリ(愛媛) インスタグラムキャンペーンパネル			
【定量的評価】 項目		28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 年間スケジュールリーフレット(35,000部)、『東京国立博物館ニュース』(30,000部)等を作成・配布したほか、各企画においても印刷物を作成し、新規の取組をするなどの効果的な広報の企画・運営が展開できた。						
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 新規に自主媒体(着ぐるみ、インスタグラム)を取り入れるとともに、マスメディアや関係団体などとの連携を深めることで、一般来館者及び外国人、若年層など、より幅広い層にも訴求するような広報制作物及び広報展開を中期計画通りに実施できている。引き続き、新規来館者層及び訪日外国人等に向けて広報活動を展開したい。						

項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供								
【年度計画】(4館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (京都国立博物館) ア 広報・宣伝制作物の企画・製作・配布等を行う。 イ 文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 植田義雄 企画室長 伊藤信二						
【実績・成果】 (4館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの製作(45,000部)・配布を行った。 (京都国立博物館) ア・新春特集陳列のポスター(2,000部)、チラシ(100,000部)の製作・配布を行った。 ・急遽、平常展期間中も夜間開館を実施することになったため、広報するためのポスター・チラシの製作・配布を行った。 イ 文化大使を引き続き任命し、広報活動を行った。 ○ PR大使として、公式キャラクター「トラりん」を活用し広報活動を行った。									
【補足事項】 (4館共通) ア 9月より夜間開館実施日が増えたため、改訂版5,000部の増刷を含む。 (京都国立博物館) ア・新春特集陳列のポスター、チラシへは、12月～29年2月に実施した特集陳列「とりづくし」、特集陳列「生誕300年 伊藤若冲」、特集陳列「皇室の御寺 泉涌寺」、特別公開「鳥取・三佛寺の蔵王権現立像」の情報を掲載した。 ・ツイッターを利用し、展覧会の混雑情報やイベントなどの情報発信に努めた。 ・9月より名品ギャラリーにおいても夜間開館を実施することになったため、夜間開館を広報するためのポスター、フライヤーを製作した。 イ 博物館の活動の周知とイメージアップを図り、当館が幅広い年齢層に受け入れてもらえるよう、引き続き文化大使として俳優の藤原紀香氏を任命した。 ○・トラりんのブログやツイッター、フェイスブックを活用し、展覧会や博物館の紹介を行い、さらに、トラりんの着ぐるみを館内に登場させ、来館者との記念撮影等を行うことで、従来の博物館のイメージの変化を図った。 ・トラりんを活用したPRを積極的に展開した結果、インターネットミュージアム主催「ミュージアムキャラクターアワード2016」にて、第1位を獲得することができ、博物館の認知度向上を図ることができた。 ・ゆるキャラグランプリ実行委員会主催「ゆるキャラグランプリ2016」にエントリーし、また、「ゆるキャラグランプリ2016 in 愛顔のえひめ」に東京国立博物館と共同ブースを出展したことにより、キャラクターを通じて幅広く博物館をPRすることができた。									
【定量的評価】項目		28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 定期刊行物の作成及び年間スケジュール改訂版の増刷(5,000部)、展覧会チラシの製作・配布、そして「Twitter」の活用にて、質・量ともに充分かつ時機を得た発信を行うことができた。また、当初想定外の夜間開館に対しても、ポスター製作等により広報を実施した。更には、公式キャラクターを活用した発信、イベントの出演等で当館に馴染みのない層へのPRが充分にできた。以上、年度計画を上回る成果を達成することができた。							
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 28年度は伊藤若冲が生誕300年でもあり関心が高まっているため、新春特集陳列のポスター・チラシにおいてメインビジュアルとなるよう製作し、誘客へつなげるよう積極的な広報を行った。また、当館ウェブサイト上の公式ツイッターにて展覧会情報や混雑情報を発信すること、当館公式キャラクターを用いた発信をすることなど、中期計画初年度として自主媒体の活用を順調に行った。29年度も自主媒体を活用し、積極的に広報を行っていきたい。							



新春特集陳列チラシ




夜間開館ポスター

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供							
【年度計画】 (4館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (奈良国立博物館) ア 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等を行う。 イ 文化大使を引き続き任命し、広報活動を行う。 ウ 写真・映像の撮影等に場所を提供し、協力することにより博物館の認知度を高める。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長 室溪 浩					
【実績・成果】 (4館共通) ア 年間スケジュールのリーフレットの制作・配布及びウェブサイトからのダウンロードサービスを実施した。 (奈良国立博物館) ア それぞれの展覧会の特性や意義に応じた広報の方針、及び印刷物の部数を議論する広報戦略委員会を、6回実施した。 イ 笑い飯哲夫氏(よしもとクリエイティブ・エージェンシー)を文化大使に任命し、広報活動の一環として29年3月12日に「奈良国立博物館文化大使 笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座」を開催し、140名の参加があった。 ウ 当館の認知度を高めるために、NHK奈良放送局制作のニュース番組の撮影に当館敷地を提供したり、トヨタ自動車WEBメディア用のスチル撮影場所になら仏像館外観を提供した。								
【補足事項】								
 <p>年間スケジュール リーフレット (左: 表面、右: 中面)</p>								
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 27年度に引き続き、笑い飯哲夫氏を文化大使に任命し広報活動を行う等、博物館の情報を発信することができた。また、当館の認知度を高めるため、メディアに対して、当館敷地を撮影場所として12件提供した。							
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画のとおり個々の企画の目的、内容等を踏まえた各種広報活動を計画的に実施することができた。特に、外国人観光客の取り込みを図るために今年度より新たにフランス語版の常設展チラシを作成した。今後は、更に広報・宣伝制作物の計画的な作成を図る。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供							
【年度計画】 (4館共通) ア 年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行う。 (九州国立博物館) ア 特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作する。 イ 現在及び過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースの整備を継続する。 ウ 文化交流展示室からの積極的な情報発信を図るため、ポスター・チラシ・ウェブコンテンツの活用を一層促進する。 エ アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信を継続する。								
担当部課	学芸部企画課 広報課	事業責任者	課長兼文化交流展室長 河野一隆 課長 古川晶一					
【実績・成果】 (4館共通) ア 年間スケジュールリーフレット「九州国立博物館 展示スケジュールのご案内」の制作・配布を行った。(50,000部) (九州国立博物館) ア 特別展のポスター、チラシなどの対象者や地域を考慮した広報・宣伝材料を制作し、情報発信に努めた。 イ 過去の特別展やトピック展示などの情報を整備した。また、当館ホームページでは「収蔵品ギャラリー」と年間展示計画とを連動させるようシステムを更新した。いつ来たら作品が見られるかを示すことによって、文化交流展示室への誘客促進を図った。 ウ 文化交流展示室の積極的な情報発信を図るため、ポスター・チラシ・ウェブコンテンツの活用のほか、ツイッターによる展示替え情報の発信、アクセストンネルへのバナー掲出、正月企画の告知、テレビCMの放映を実施した。 エ アンテナショップ入口に特別展バナーを設置し、太宰府天満宮参道客への展覧会PRを図った。								
【補足事項】 (九州国立博物館) ア・ポスター、ちらし、「展示・イベントスケジュール」の設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。 ・商工団体へ「展示・イベント案内ちらし」を毎月、『季刊情報誌アジアージュ』を年4回送付し、会員等への周知を依頼した。 ・商業施設(JR博多シティ)と協力して、ワークショップを開催するとともに広報活動を展開した。 ウ・正月企画の展示・イベント告知のためCMを製作し、テレビ放映による告知を行った。 エ・トピック展の告知強化のため太宰府観光協会と協力し、参道バナー掲出に取り組んだ。								
								
ウ) 正月CMの一コマ				エ) 参道へのバナー掲出の様子				
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 リーフレット、ポスター・チラシなどの制作や活用を行うほか、28年度は年始の集客増に向けたCM制作や、ツイッターによる展示替え情報の細かな発信など新たな取り組みも行い、来館者増に努めた。							
【中期計画記載事項】 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画のとおり、企画の目的や内容等を考慮し、広報を実施することができた。特に28年度においては、地域・年齢層などのターゲティングを行った上で情報発信の媒体を新たに開拓し、効果的な広報を行うことができた。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動								
【年度計画】 (4館共通) ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 (東京国立博物館) ア 主要メディアの文化担当記者との懇談会を開催し、マスコミとの連携を強化する。 イ 上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。									
担当部課	総務部総務課 学芸企画部広報室			事業責任者	総務課長 竹之内 勝典 広報室長 鬼頭 智美				
【実績・成果】 (4館共通) ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 (東京国立博物館) ア プレスリリースの適時発行、特別展・総合文化展特集などの記者発表会・報道内覧会の開催を通じ、主要メディアの文化担当記者との連絡を密にし、連携を強化した。 イ 上野「文化の杜」新構想実行委員会において、『TOKYO数寄フェス』を開催した。また、夜間イベントやトークセッション、地域との連携交流事業等を実施した。									
【補足事項】 (4館共通) ア 青月社「はにわ」(9月刊行)で考古展示室の埴輪を紹介、刊行記念イベント<9/1 於：新宿ロフトプラスワン>の際、広報大使トーハクくんが出演、一般の方が収蔵品への親近感を高めるようつとめた。 (東京国立博物館) ア 特別展に加え、特別公開「新発見！天正遣欧少年使節 伊東マンショの肖像」(5月16日)、特集「生誕百年記念 小林斗盦 篆刻の軌跡」(10月31日)など、総合文化展内の企画においても報道内覧会を実施、新聞主要紙・美術系番組制作者等に適時性を持って情報を提供、総合文化展としては多くの出席者を得た。									
									
<p>「小林斗盦 篆刻の軌跡」報道内覧会 (10月31日) 「はにわ」刊行イベント (9月1日)</p> <p>イ 『TOKYO数寄フェス』(10月21日～23日)のうち、21日は特別に夜間開館を実施し、イベント全体での延べ参加者数は313,000人であった。</p>									
【定量的評価】 項目		28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 当館の収蔵品の普及に資する単行本発刊にあたっての対応、主要マスコミへの掲載・番組を通じての広報活動により、当館および収蔵品を一般に効果的にアピールできた。懇談会については、28年度は、特別展が急きょ追加で開催されるなど、あまりに特別展・特集とそれに伴う記者発表会・報道内覧会が続いたため、別途懇談会を設ける時機がなかったため、29年度より効果的に実施することとしたが目的は達成しており順調に進めている。 上野「文化の杜」新構想実行委員会においても各施設と連携して効果的な事業をした。						
【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり広報印刷物・動画サイトや新規ツールも含めたSNS運営などの実施により、一般及びメディア媒体への認知度は年々着実に浸透力を高めている。今後も自主媒体により時機に合った話題を提供し、積極的な広報活動を展開する。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動							
<p>【年度計画】(4館共通) ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 (京都国立博物館) ア 地域等が主催する各種の委員会に参加・連携し、広報活動を展開する。 イ 京都市内4美術館・博物館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都文化博物館、京都市美術館)で連携し、共通の展覧会情報パンフレットを制作・配布する。</p>								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 植田義雄 企画室長 伊藤信二					
<p>【実績・成果】(4館共通) ア・特集陳列「丹後の仏教美術」においては科学機器を用いた調査により判明した新知見と、特別展覧会「坂本龍馬」では作品調査中に確認できた重要な作品に関する記者発表を行った。 ・特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」においては5月に東京にて記者発表会を共催社と連携して行い、首都圏のマスメディアへの訴求及び集客増を狙った。 ・29年度が当館の開館120周年であること及び29年度開催予定の特別展覧会、28年冬の特集陳列の記者発表を11月7日(於：東京)、12月12日(於：京都)において行った。 ・グーグルが推進する「Google Arts & Culture」に参加し、11月1日に公開した。 (京都国立博物館) ア 周辺寺社及び商店街等で構成される東山南部地域活性化委員会に参加し、11月18日～20日に開催された同委員会主催の「第3回太閤祭り」(於：豊国神社)に協力した。 イ 京都市内4美術館・博物館で組織する「京都市内4館連携協力協議会」での連携協力として、合同パンフレットを作成した。</p>								
<p>【補足事項】(4館共通) ア・11月7日 開館120周年記念記者発表会(東京都中央区八重洲 ベルサール八重洲) 出席人数78人 ・12月12日 開館120周年記念記者発表会(当館講堂) 出席人数64人 ・「Google Arts & Culture」上において、当館が所蔵する国宝や重要文化財など120件についての画像200点が閲覧可能となった。また、高精細の画像のため、細部までの鑑賞が可能である。なお、公開日当日に本サービスへ参加することの記者発表を行った。 (京都国立博物館) ア 当館の敷地の一部を同行事の本部事務局ブースとして貸与した。また、特別展覧会「没後150年 坂本龍馬」において「第3回太閤まつり」のチラシを持参した場合には、団体割引料金を適用した。</p>								
								
11月7日 記者発表風景		「Google Arts & Culture」記者発表						
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 29年度の記者発表を2回行ったことやグーグルが推進する「Google Arts & Culture」に参加するなど、様々な媒体と連携した広報活動が十分に実施できた。また、周辺地域の委員会への参加や京都市内4館連携協力協議会への連携協力など、立地に適した連携協力を充分に行うことができた。</p>							
<p>【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。</p>								
【中期計画に対する評価】 評価：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 マスメディアとの連携強化のための開館120周年記念記者発表を2回行うことやグーグルとの連携協力など、今後の広報展開の広がりや寄与する取組を行うことができた。近隣施設とも引き続き連携強化を行い、京都という立地を生かした広報を展開していきたい。</p>							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動									
<p>【年度計画】 (4館共通) ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 (奈良国立博物館) ア 「奈良トライアングルミュージアムズ」(奈良国立博物館、奈良県立美術館、入江泰吉記念奈良市写真美術館)での連携により、集客増に繋がる広報活動を展開する。 イ 展覧会、博物館活動への理解・促進を図るため、マスコミへの情報提供を行うとともに取材を積極的に受け入れる。 ウ タクシーやホテル等利用者への広報を図るため、関係業界に対し特別展の説明会・内覧会を実施する。 エ 地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。 オ 近隣社寺等において展覧会チラシの配布など広報協力を依頼する。</p>										
担当部課	総務課		事業責任者	課長 室溪 浩						
<p>【実績・成果】 (4館共通) ア 公共交通機関とタイアップし社内吊り広告や駅貼ポスターの掲出を行い、展覧会に関する情報発信を行った。 (奈良国立博物館) ア 奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、11月に奈良国立博物館にてワークショップ、12月に奈良まほろば館にて東京セミナーを実施した。 イ プレス向けの内覧会を、特別展で3回、特別陳列で2回、その他で2回開催したほか、個別の取材依頼にも積極的に応じた。 ウ 特別展では、タクシー・ホテル等関係者に対する内覧会を実施、タクシー・ホテル等の利用者への広報活動を行った。 エ 奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良市観光協会との連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。 オ 周辺関係社寺等と連携し、特別展等の割引特典付きチラシ配布を行った。</p>										
<p>【補足事項】 (奈良国立博物館) オ ・冬季の集客を図るため割引券を作成し、観光案内所及び市内の宿泊施設に配布した。 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」について、期間限定の無料観覧券(※名品展も無料)を、春日大社において配付し、おん祭展の広報と館の認知度アップに繋げた。 ・特別陳列「お水取り」について、期間限定の無料観覧券(※名品展も無料)を、東大寺において配付し、お水取り展の広報と館の認知度アップに繋げた。</p>										
 <p>「お水取り」無料観覧券</p>										
【定量的評価】 項目			28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
-			-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 特別展においては主催者であるマスメディアと協力して情報発信に努め、また、公共交通機関とタイアップして広報活動を行うことができた。また、特別展等の割引特典付きチラシを配付する等、近隣社寺と連携して広報を行うことができた。							
【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。										
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 自主媒体を活用した情報発信、公共交通機関とタイアップした広告の掲出、近隣施設と連携した特別展等の割引特典付きチラシの配付等、中期計画どおり順調に広報活動ができており、今後も引き続き積極的な広報を行っていく。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動							
【年度計画】 (4館共通) ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開する。 (九州国立博物館) ア 地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開する。 イ 九州観光推進機構などを通じた海外への広報・営業活動を展開する。 ウ 近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。								
担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長 古川晶一 課長 菅原秀倫					
【実績・成果】 (4館共通) ア マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。 (九州国立博物館) ア 地域の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を展開した。 イ 九州観光推進機構などを通じた海外への広報・営業活動を展開した。 ウ 近隣地域の諸団体や支援団体等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図った。								
【補足事項】 (九州国立博物館) ア・特別展セットチケットの販売に併せ、西日本鉄道(電車・バス)構内等でのポスターの掲出、チラシの配架など、公共交通機関と相互協力を行った広報を展開した。 ・JR博多駅へサイネージ広告の掲出を行った。 ・商業施設(JR博多シティ)と協力して、ワークショップを開催するとともに広報活動を展開した。 ・マスコミ各社を対象とする懇親会を実施した。 ・ポスター、ちらし、「展示・イベントスケジュール」の設置など太宰府観光協会と連携した広報活動を実施した。 ・商工団体へ「展示・イベント案内ちらし」(毎月)、『季刊情報誌アジアージュ』(年4回)を送付し、会員等への周知を依頼した。 イ・福岡県が運営するポップカルチャー配信サイト「アジアンビート」のウェブサイトに博物館情報を掲載した。 ・九州観光推進機構のウェブサイトに博物館情報を掲載し、アジアへ情報を発信した。 ウ・太宰府天満宮参道においてトピック展及び博物館の告知バナーを掲出し、展覧会情報の周知を図った。								
								
JR博多シティでのイベントの様子		アジアンビートへの博物館情報掲載(6月6日)						
【定量的評価】項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 ポスター・チラシなどの制作や活用を行うほか、27年度に引き続き主要公共交通機関の施設内においてイベントを実施し、博物館を認知していない客層への周知活動、来館者増に努めた。太宰府天満宮参道等の周辺地域にも定期的にチラシを配架し、広報活動の充実を図った。							
【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや上野「文化の杜」新構想実行委員会の加盟機関をはじめとする近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画のとおり、広報印刷物やウェブサイト等を活用し、近隣施設や団体と協力して広報を実施することができた。28年度はツイッターによる広報を開始し、新たに若年層に向けた情報発信を行うことができた。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実								
【年度計画】 (4館共通) ア ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。 イ メールマガジンを配信する。 (東京国立博物館) ア 『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行う。(年6回) イ ウェブサイトでは、ブログや投票などの博物館の顔が見えるコンテンツ及びユーザ参加型のコンテンツを継続して発信する。 ウ SNS(ツイッター、フェイスブック)による情報発信を継続して行う。									
担当部課	学芸企画部博物館情報課 学芸企画部広報室			事業責任者	博物館情報課長 田良島 哲 広報室長 鬼頭 智美				
【実績・成果】 ア ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。ウェブサイトはデザインを一部リニューアルし、利便性を高めるとともに、スマートフォン対応を強化、ウェブサイトのアクセス件数が向上した。 イ メールマガジンを配信した(23回)。 (東京国立博物館) ア 『東京国立博物館ニュース』の編集・発行・配布を行った。(年6回) イ ・「1089ブログ」により、情報発信を行った。(更新数92回) ・「投票」など、読者参加型のコンテンツで、展示や文化財についての興味喚起を図った。 ウ ツイッター、フェイスブックに加え、画像コンテンツを主としたインスタグラムによる情報発信を開始、よりタイムリーな情報提供とともに、ことに若年層へのアプローチを強化した。									
【補足事項】 (4館共通) (東京国立博物館) ・「1089ブログ」では、特別展に関するだけでなく、総合文化展の見どころや特集について、画像もふんだんに使用し楽しくわかりやすい内容を提供した。 ・ツイッターフォロワー50,141件、(27年度34,243件)、フェイスブックいいね!19,292件(27年度10,331件)27年度より着実に数を伸ばしている。また、8月30日開始以来インスタグラムではフォロワー数1000件を越え、29年度はさらに多くのフォロワー獲得が期待される。									
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化※2		24	25	26	27
ウェブサイトのアクセス件数※1	6,433,867件	5,380,118件	B		①	-	3,783,745	4,929,191	7,427,419
				②	2,982,729	2,898,885	4,248,437	6,724,460	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 年度計画記載の事項を実施し、ウェブサイトのアクセス数は550万件を超え目標値を上回っている。その内容の充実やSNSの活用により、東京国立博物館のより積極的なPRに寄与した。特にツイッターの活用により、一定数以上の固定ファンを獲得し、ツイッターのフォロワー数は50,141件となっている。						
【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、(中略)等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。									
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり、博物館ニュースウェブサイトなど自主媒体および各種ソーシャルメディアの活用により、当館の認知度を向上し、一般への博物館とその収蔵品を効果的に広報することができた。29年度以降も時機に合った話題の提供により、ことに若年層への働きかけを行いたい。						

※1 28年度実績は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。

※2 上段①の数値は、本体サイト及び研究情報アーカイブズのアクセス件数。下段②の数値は、本体サイトのみのアクセス件数。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実							
【年度計画】 (4館共通) ア ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。 イ メールマガジンを配信する。 (京都国立博物館) ア 『京都国立博物館だより』、『Newsletter』(英文)の編集・発行・配布を行う。(年4回) イ 博物館ディクショナリーを発行し、新刊をメールマガジンにて配信する。 ウ 収蔵品貸与情報をウェブサイトにて公開する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 伊藤信二					
【実績・成果】 (4館共通) ア ウェブサイトアクセス件数は3,334,335件であり目標値を達成した。 イ メールマガジンを12回配信した。(121~132号) (京都国立博物館) ア 『京都国立博物館だより』(190~193号)、『Newsletter』(129号~132号)の発行を行った。 イ 博物館ディクショナリー(188~197号)を発行し、新刊をメールマガジンにて配信した。 ウ 館蔵品・寄託品の貸与情報をウェブサイトにて公開した。								
【補足事項】 (4館共通) ア ウェブサイトアクセス件数向上のため、ウェブサイトトップページのレイアウトに修正を加え、特集陳列等の情報を目立たせるようにした。また、開館120周年記念事業を紹介するウェブページを作成し、12月28日より公開した。								
								
ウェブサイトトップページ				開館120周年記念事業ページ				
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評定	経年変化	24	25	26	27
ウェブサイトのアクセス件数	3,334,335件	2,274,464件	A		1,837,113	1,562,480	2,964,705	3,172,381
【年度計画に対する総合評価】			【判定根拠、課題と対応】					
評定：B			ウェブサイトアクセス件数は目標値を達成し、メールマガジンの配信及び『京都国立博物館だより』等計画通り実施できた。また、問合せの多い特集陳列の情報をトップページへわかりやすく掲載することなど、適宜改善を図ることができており、十分な成果である。					
【中期計画記載事項】								
(略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、(中略)等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイト運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】			【判定根拠、課題と対応】					
評定：B			ウェブサイトアクセス件数が目標値を達成することができた。また、時宜的なニーズに応じるため、ウェブサイトのトップページのレイアウトを変更するなど、中期計画初年度として順調に進捗することができた。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実							
【年度計画】 (4館共通) ア ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。 イ メールマガジンを配信する。 (奈良国立博物館) ア 特別展及び名品展の情報を掲載した『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行う。(年4回) イ ウェブサイトの外国語版の充実を図る。 ウ 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載する。 エ 英語による展覧会チラシを作成し、外国人観光客誘致のための情報発信を行う。								
担当部課	学芸部	事業責任者	情報サービス室長 岩井共二					
【実績・成果】 (4館共通) ア 特別展や公開講座の企画ごとに、また展示替えごとにウェブサイトを更新し、最新の情報提供を行った。なお、ページビュー数などの利用状況を考慮の上、モバイルサイトについては閉鎖することとなった。 イ 特別展・名品展やイベント情報など、館の活動に関する情報をメールマガジン(毎月1回計11回)のほか、公式ツイッターを使って発信し、より迅速かつ効率的な広報を行った。 (奈良国立博物館) ア 名品展や特別展の紹介に加え、展覧会情報、イベント情報等を掲載した季刊誌『奈良国立博物館だより』を4回発行。配布を行った。 イ 英文サイトに加え、フランス語・中国語・韓国語によるなら仏像館の案内をウェブサイト上に掲載した。 ウ 『奈良国立博物館だより』のPDF版をウェブサイトに掲載した。 エ 特別展では英文チラシを作成、外国人観光客向けの情報発信を行った。								
【補足事項】 (4館共通) イ 公式ツイッターのフォロワー数は、28年度中に12,000件を超えており、27年度より1.5倍程度の増加となった。 (奈良国立博物館) エ 生誕800年記念特別展「忍性 一救済に捧げた生涯」に関連した動画の英語版、中国語版を作成し、Youtube上に公開した。								
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
ウェブサイトのアクセス件数	1,167,926件	953,946件	A		845,202	893,553	1,196,669	1,112,057
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 27年度に引き続き、ウェブサイト及び広報刊行物を通じて広く情報提供を行うことができた。なお、モバイルサイトについては、利用状況の低さから閉鎖となったが、ツイッターフォロワーが1.5倍、ウェブサイトアクセス件数についても27年度と同程度の件数を維持することができており、順調に目標を達成していると言える。							
【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、(中略)等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 公式ツイッターによる情報提供については、フォロワーが順調に増加している。また、特別展に関連した外国人観光客誘致事業についても一定の成果を上げることができた。他の広報媒体も順調に成果を上げており、中期計画を順調に遂行できている。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(3) 教育・普及活動 ②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3) 広報活動の充実 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実							
【年度計画】 (4館共通) ア ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行う。また、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、ウェブサイトのアクセス件数の向上を目指す。 イ メールマガジンを配信する。 (九州国立博物館) ア ウェブサイトで提供する博物館情報の充実を図るとともに、利用者の利便性を考慮した情報の発信に努める。 イ 『九州国立博物館季刊情報誌アジージュ』の編集・発行・配布を行う。(年4回) ウ 太宰府市と連携し、スマートフォンに対応した文化情報発信サイトにより情報発信を行う。								
担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長 古川晶一 課長 菅原秀倫					
【実績・成果】 (4館共通) ア ウェブサイト、モバイルサイトによる情報提供を行った。 イ メールマガジンを配信した。(毎月2回、年24回) (九州国立博物館) ア・ウェブサイトにて文化交流展示室の展示スケジュール等を掲載した。 ・8月より当館アカウントによるツイッターを開始し、展示情報等のこまめな情報発信を行った。 イ 九州国立博物館季刊情報誌『アジージュ』を発行した。(年4回) ウ スマートフォン向け情報ガイド「太宰府市イベントガイド」で展覧会情報等を発信した。								
【補足事項】 (4館共通) ア・駐車場の混雑や対策のため、ウェブサイト、ツイッターにて駐車場空き情報を継続して提供した。 ・ウェブサイト利用者からの意見に「九博メール」で対応した。 イ・読者投稿紹介を行うなど双方向型とした。 ・メールマガジン登録数(5,690件、3月31日現在)は毎月平均50人ずつ増えており、また、平均開封率が10%前後といわれている中、約40%と高水準を維持している。								
								
				季刊情報誌『アジージュ』		ツイッターでの情報配信の様子		
【定量的評価】 項目	28年度実績	目標値	評価	経年変化	24	25	26	27
ウェブサイトのアクセス件数	2,117,092件	1,696,500件	A		2,078,279	1,209,272	1,827,152	2,217,391
【年度計画に対する総合評価】 評価：A			【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトのアクセス件数は目標値を大幅に上回った。ツイッターを開始したことにより、混雑が予想される展覧会でリアルタイムに待ち時間を案内することができた。その他、ウェブサイトのアクセス数、メルマガ登録数の増加及び開封率も高い状態を保っており、利用者に対するウェブサイトやメルマガの効果は実感できた。					
【中期計画記載事項】 (略) 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用、(中略)等により、積極的な広報を行う。 ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画に記載のとおり積極的な広報活動を順調に行った。特にツイッターは18～24歳のフォロワー層が27%(3月31日現在)で一番高く、新たに若年層に向けた広報につながった。					